

平成 2 8 年 度
事 業 報 告

自 平成 2 8 年 4 月 1 日
至 平成 2 9 年 3 月 3 1 日

公益社団法人 神奈川県薬剤師会

目 次

頁

会務報告

1 会員数	1
2 各種会議開催状況	1
3 各種委員等就任状況	4
4 会員の表彰	8
5 会員の物故	10
6 厚生労働省、日薬等の会議参加状況	11
会員の動向	13

事業報告

I 公益目的事業	
1 薬学・薬業の進歩発展に関する事業	16
2 児童・生徒等に関する事業	18
3 医薬品適正使用に関する事業	20
4 医療安全に関する事業	24
5 公衆衛生に関する事業	25
6 地域医療に関する事業	27
7 災害時医療救護活動に関する事業	30
II 法人組織運営に関すること	
(1) 総会、理事会等開催など	32
(2) 組織強化と財務の健全化	32
(3) 会員管理	33
(4) 共済部からの寄付について	34
III 共益事業	
(1) 薬剤師の生涯学習の推進	35
(2) リスクマネジメントシステムの充実	37
(3) 多重受診防止対策及び偽造処方せん対策の推進	38
(4) 医薬品計画的試験検査委託	38
(5) 薬剤師賠償責任保険・個人情報漏えい保険の普及	39
(6) 会誌「薬壺」発行事業	39
(7) 会員向けホームページ、メールマガジンの充実	39
IV 収益事業	
(1) 会議室等賃貸業	41
(2) 書籍等販売業	41
参考資料	
平成28年度会議室利用状況	42
平成28年度神奈川県薬剤師会事業計画	43
平成28年度神奈川県薬剤師会事業体系図	44
神奈川県薬剤師会組織図	46
平成28年度神奈川県薬剤師会委員会 委員名簿	47

会 務 報 告 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

1. 会員数 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

会員総数 4, 7 5 0 人 (対前年 6 0 人減)	第 1 種会員	2, 5 6 9 人 (対前年	1 2 人減)
	第 2 種会員	1, 7 8 8 人 (対前年	8 5 人減)
	第 3 種会員	5 8 人 (対前年	5 8 人増)
	賛助会員	3 2 4 人 (対前年	1 9 人減)
	名誉・有功会員	1 1 人 (対前年	2 人減)

<13 頁参照>

2. 各種会議開催状況

(1) 総 会 3 回

① 平成 28 年度通常総会

日 時：平成 28 年 6 月 19 日 (日) 午後 1 時～午後 4 時 23 分

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 1 階 多目的ホール

出 席 者：出席者 66 名、委任状 9 名、書面表決 2 名、合計 77 名

報告事項：報告第 1 号 平成 27 年度事業報告について

報告第 2 号 日本薬剤師会第 86 回臨時総会報告について

審議事項：議案第 1 号 平成 27 年度収支決算の承認について

議案第 2 号 会長候補者選挙規則の一部改正について

議案第 3 号 会長候補者選挙規則施行細則の制定について

いずれも賛成多数により原案通り可決された。

② 平成 28 年度第 1 回臨時総会

日 時：平成 28 年 10 月 6 日 (木) 午後 7 時～午後 8 時 30 分

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 1 階 多目的ホール

出 席 者：出席者 35 名、委任状 15 名、書面表決 25 名、合計 75 名

審議事項：議案第 1 号 神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度の薬剤師認定制度認証機構への
の認証取得について

賛成多数により原案通り可決された。

③ 平成 28 年度第 2 回臨時総会

日 時：平成 29 年 3 月 5 日 (日) 午後 1 時～午後 4 時 30 分

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 1 階 多目的ホール

出 席 者：出席者 55 名、委任状 12 名、書面表決 9 名、合計 76 名

報告事項：報告第 1 号 「神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度の薬剤師認定制度認証機構への
認証取得」について

審議事項：議案第 1 号 平成 29 年度事業計画について

議案第 2 号 平成 29 年度収支予算について

議案第 3 号 平成 29 年度借入金最高限度額について

いずれも賛成多数により原案通り可決された。

議案第 4 号 神奈川県薬剤師会会長候補者の選任について

立候補者は 1 名で、会長候補者選挙規則第 10 条により選ぶべき員数を超えなかったため、投票は行わず、当選としてよいか諮られ、賛成挙手が過半数以上であったため、鵜飼典男候補が会長候補者に選任された。

(2) 理事会 8回 (5/19, 7/28, 10/6, 10/13, 11/10, 12/15, 2/2, 3/5)

(3) 常務理事会 24回
(4/7, 4/21, 5/12, 5/26, 6/2, 6/16, 7/7, 7/21, 8/4, 8/25, 9/8, 9/21, 10/6, 10/27, 11/10, 11/24, 12/1, 12/15, 1/12, 1/26, 2/9, 2/23, 3/2, 3/23)

(4) 監査会 2回 (本監査 5/16, 中間監査会 11/18)

(5) 地域・職域薬剤師会 会長協議会 4回

開催日	講演内容等	意見交換等
第1回 (4/28)	「緩和ケアは誰でもできる！」 横浜市立大学医学部医学科総合診療医学 准教授 日下部 明彦 氏	・健康サポート薬局に係る地域の連携体制アンケート調査結果について
第2回 (7/21)	(1) 健康サポート薬局について ①「健康サポート薬局」の届出について ②「健康サポート薬局」に係る研修等について (2) 薬剤師認定制度認証機構の認証取得について	・地域連携の成功例紹介 ①横浜市青葉区薬剤師会 ②平塚中郡薬剤師会
第3回 (11/24)	「医療分野のICT化について」 公益社団法人日本薬剤師会 中央薬事情報センター 医薬情報管理部 課長 河野 行満 氏	・薬剤師認定制度認証機構 認定取得後の研修制度について
第4回 (2/16)	神奈川県薬剤師会における各種委員会活動について ①医療・介護保険委員会 ②地域保健委員会 ③実務実習委員会	・薬剤師認定制度認証機構 神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度について

(6) 委員会

- ①倫理委員会 2回 (9/30, 11/14)
- ②総務委員会 4回 (5/9, 9/23, 11/2, 1/17)
- ③広報出版委員会 6回 (4/6, 6/1, 8/3, 10/4, 12/7, 2/7)
- ④生涯学習委員会 6回 (5/12, 6/16, 8/25, 10/27, 12/1, 2/9)
- ⑤医療・介護保険委員会 4回 (6/16, 9/8, 11/21, 3/16)
- ⑥公衆衛生・学薬委員会 5回 (4/21, 8/4, 10/14, 12/8, 3/17)
- ⑦地域保健委員会 5回 (4/15, 6/3, 10/12, 12/20, 3/2)
- ⑧リスクマネジメント委員会 4回 (5/12, 7/14, 9/8, 2/9)
- ⑨学術大会実行委員会 5回 (5/24, 7/29, 11/7, 12/5, 3/1)
- ⑩実務実習委員会 3回 (4/21, 8/4, 12/8)
- ⑪代議員選挙管理委員会 4回 (4/18, 12/1, 12/22, 2/20)
- ⑫総会議事運営委員会 3回 (4/21, 9/1, 1/19)
- ⑬医薬品適正使用検討委員会 1回 (11/16)
- ⑭くすりと健康相談薬局運営協議会 4回 (4/7, 8/10, 11/15, 2/13)
- ⑮公益法人運営特別会費検討委員会 1回 (10/27)

(7) その他会議

①正副会長会 21回

(4/7, 4/21, 5/19, 5/26, 6/2, 6/16, 7/7, 7/21, 8/4, 8/25, 9/8, 10/6, 10/13, 11/10, 11/16, 11/24, 12/15, 1/12, 1/26, 2/23, 3/23)

②春秋会 1回 (4/14)

日時：4/14 (木) 午後3時～午後4時30分

会場：神奈川県総合薬事保健センター 3階会議室

出席者：12名 (名誉会員2名、有功会員2名、執行役員8名)

③神奈川薬業協議会

日時：4/18 (月) 午後7時30分～午後9時

会場：神奈川県総合薬事保健センター 3階会議室

出席者：8名 (県病薬正副会長4名、県薬正副会長4名)

④会長賞等選考審査会

日時：11/24 (木) 午後5時～午後6時

会場：神奈川県総合薬事保健センター 2階役員会議室

出席者：8名 (執行役員8名)

⑤県保健福祉局との連絡会議

日時：2/10 (金) 午前10時～午前11時

会場：波止場会館 会議室

出席者：21名 (県保健福祉局12名、県薬執行役員9名)

⑥県薬務課との連絡会議

日時：2/10 (金) 午前11時～午後12時

会場：波止場会館 会議室

出席者：15名 (県薬務課6名、県薬執行役員9名)

⑦神奈川県総合薬事保健センター入居団体会議

日時：11/8 (火) 午後3時～午後4時

会場：神奈川県総合薬事保健センター 3階会議室

出席者：10団体 (3団体欠席)

⑧薬業団体新年賀詞交換会

日時：1/11 (水) 午後3時～午後4時30分

会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

出席者：139名 (うち来賓60名 黒岩知事ほか)

3. 各種委員等就任状況

《公的委員》

(H29. 3. 31 現在)

N o	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命権者	関係部署
1	関東信越地方社会保険医療協議会神奈川部会	加藤会長	委員	局長	厚生労働省 関東信越厚生局
2	県医療通訳派遣システム事業運営委員会	鵜飼副会長	委員	知事	県国際課
3	かながわ地球環境保全推進会議	鵜飼副会長	監事	知事	県環境計画課
4	かながわ地球環境保全推進会議 県民部会	高堂理事	部会員	知事	県環境計画課
5	県医療審議会	加藤会長	委員	知事	県医療課
6	県災害医療対策推進会議	後藤副会長	委員	知事	県医療課
7	県保健医療計画推進会議	高橋 洋一	委員	知事	県医療課
8	県医療安全推進協議会	鵜飼副会長	委員	知事	県医療課
9	県医療安全対策事業実行委員会	鵜飼副会長	委員	知事	県医療課
10	県医療費検討委員会	後藤副会長	委員	知事	県医療保険課
11	県エイズ対策推進協議会	金子理事	運営委員	知事	県健康危機管理課
12	災害時医療救護対策部会 医療救護体制部会	後藤副会長	部会員	知事	県健康危機管理課
13	災害時医療救護対策部会 ロジスティック部会	寺師理事	部会員	知事	県健康危機管理課
14	かながわ健康プラン 21 推進会議及びがん克服 県民会議	小川副会長	委員	知事	県健康増進課
15	医食農同源研究会	坂本理事	委員	知事	県健康増進課
16	県認知症対策推進協議会	佐藤理事	委員	知事	県高齢社会課
17	かながわ高齢者保健福祉計画評価・推進等委員会	長津常務	委員	知事	県高齢社会課
18	県慢性腎臓病〈CKD〉対策連絡協議会	鵜飼副会長	副会長	知事	県保健予防課

No	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命 権者	関係部署
19	県自然環境保全審議会温泉部会	荒井理事	委員	知事	県環境衛生課
20	県薬事審議会	加藤会長	副会長	知事	県薬務課
21	県献血推進協議会	金子理事	委員	知事	県薬務課
22	県薬物乱用対策推進本部 本部会	加藤会長	本部員	知事	県薬務課
23	県薬物乱用対策推進本部 啓発・青少年対策部会	高堂理事	部会員	知事	県薬務課
24	県後発医薬品使用促進協議会	後藤副会長	委員	知事	県薬務課
25	県学校喫煙・飲酒・薬物乱用防止対策推進協議会	加藤会長	委員	会長	県保健体育課
26	県学校給食特別優良学校現地審査会	加藤会長	委員	知事	県保健体育課
27	県学校給食表彰審査会	中北常務	委員	知事	県保健体育課
28	県学校保健及び学校安全表彰（文部科学大臣表彰）に係る選考委員会	加藤会長	委員	知事	県保健体育課
29	県健康推進学校表彰審査会	高堂理事	委員	知事	県保健体育課
30	ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川推進会議	加藤会長	構成員	知事	オリンピック・パラリンピック課
31	県国民健康保険診療報酬審査委員会	小川副会長 寺師理事 阿部理事 今井 裕久 高橋 良二 依田 啓司 飯田 純一	審査委員	理事長	国保連合会
32	県国民健康保険診療報酬運営委員会	小川副会長	運営委員	理事長	国保連合会
33	社会保険診療報酬支払基金神奈川支部 診療報酬請求書審査委員会	常盤 孝司 花島 邦彦 泉 紀久恵	審査委員	支部長	診療報酬支払基金
34	社会保険診療報酬支払基金神奈川支部 幹事会	加藤会長	参与	支部長	診療報酬支払基金

N o	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命権者	関係部署
35	「マイ ME-BYO カルテ」の災害活用に係る勉強会	後藤副会長	委員	知事	ヘルスケア・ニューフロンティア 推進本部室

《民間団体委員》

N o	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命権者	関係部署
36	(公社)日本薬剤師会 組織・会員委員会	山形理事	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
37	(公社)日本薬剤師会 医療保険委員会	小川副会長	委員長	会長	(公社)日本薬剤師会
38	(公社)日本薬剤師会 地域医療・保健委員会	長津常務	委員長	会長	(公社)日本薬剤師会
39	(公社)日本薬剤師会 編集委員会	尾鳥 勝也	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
40	(公社)日本薬剤師会 薬局製剤・漢方委員会	八木 多佳子	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
41	(公社)日本薬剤師会 生涯学習委員会	厚田 幸一郎	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
42	(公社)日本薬剤師会 薬学教育委員会	戸田 潤 片山 周也	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
43	(公社)日本薬剤師会 薬剤師倫理規定の見直しに関する特別委員会	高橋 洋一	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
44	(公社)日本薬剤師会 臨床・疫学研究推進委員会	竹内常務	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
45	(公社)日本薬剤師会 健康サポート研修委員会	長津常務	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
46	(公社)日本薬剤師会 医薬品情報評価検討会	菅野 君子	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
47	(公社)日本薬剤師会 薬価基準検討会	笠原 英城	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
48	(公社)日本薬剤師会 薬局薬剤師部会	花島 邦彦	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
49	(公社)日本薬剤師会 行政薬剤師部会	高柳 栄郎 香川 貴則	幹事	会長	(公社)日本薬剤師会
50	(公社)日本薬剤師会 学校薬剤師部会ワーキンググループ	神原 大輔 田口 真穂	委員	会長	(公社)日本薬剤師会
51	日本薬剤師国民年金基金	平塚 久美子	代議員	理事長	日本薬剤師 国民年金基金
52	病院・薬局関東地区調整機構 薬局小委員会	鵜飼副会長	委員	会長	薬学教育協議会

No	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命 権者	関係部署
53	県立こども医療センター地域医療支援事業 運営委員会	寺師理事	委員	総長	県立こども医療 センター
54	県がん診療連携協議会 地域連携クリティカルパス 部会	向井理事	委員	総長	県立がんセンター
55	県立保健福祉大学を支援する会	加藤会長	理事	会長	県立保健福祉大学
56	県エイズ治療拠点病院等連絡協議会	鶴岡理事	委員	会長	横浜市大付属病院
57	かながわ青少年社会環境健全化推進会議	加藤会長	委員	会長	県青少年課
58	県公衆衛生協会	加藤会長	理事	会長	県健康増進課
59	スモークフリー推進かながわ基金 運営委員	金子理事	委員	会長	県がん対策課
60	薬物クリーンかながわ推進会議	加藤会長	会長	会長	県薬務課
61	薬物クリーンかながわ推進会議 運営委員会	小川副会長	委員	会長	県薬務課
62	県立学校保健会	小川副会長	理事	会長	県立学校保健会
63	保健に関する実践記録・調査研究作品表彰審査会	金子理事	委員	会長	県立学校保健会
64	県学校保健連合会	加藤会長 小川副会長 中北常務 金子理事	副会長 理事 評議員 評議員	会長	県学校保健連合会
65	県学校保健連合会 学校薬剤師部会	加藤会長	部会長	会長	県学校保健連合会
66	県学校保健連合会 健康手帳改訂委員会	中北常務	委員	会長	県学校保健連合会
67	県社会福祉協議会 評議員会	鵜飼副会長	評議員	会長	県社会福祉協議会
68	県社会福祉協議会第2・3種正会員連絡会	坂本理事	委員	会長	県社会福祉協議会
69	県医師会災害救助対策委員会	寺師理事	委員	会長	県医師会
70	禁煙、分煙を推進する神奈川会議	高堂理事	副会長	会長	県医師会
71	県糖尿病対策推進会議 幹事会	唐澤常務	幹事	会長	県医師会
72	在宅医療トレーニングセンター運営協議会	井上専務	委員	会長	県医師会
73	県在宅歯科医療連携室整備事業推進協議会	山形理事	委員	会長	県歯科医師会

No	審 議 会 等 名	委 員	役職名	任命 権者	関係部署
74	県保険者協議会	小川副会長	委員	理事長	国保連合会
75	県保険者協議会 事業検討委員会	長津常務	委員	理事長	国保連合会
76	県介護支援専門員協会	唐澤常務	理事	理事長	県介護支援専門員協会
77	県介護支援専門員協会 生涯研修体系構築・推進委員会	唐澤常務	委員	理事長	県介護支援専門員協会
78	(公財)かながわ健康財団評議員会	加藤会長	評議員	理事長	(公財)かながわ健康財団
79	(公財)かながわ健康財団 がん対策推進会議	中北常務	委員	会長	(公財)かながわ健康財団
80	健康チャレンジフェアかながわ実行委員会	高橋事務局長	委員	会長	(公財)かながわ健康財団
81	(一財)北里環境科学センター 評議員会	竹内常務	評議員	理事長	(一財)北里環境科学センター
82	(一社)薬学教育評価機構 評価委員会	鵜飼副会長 花島 邦彦	評価 実施員	理事長	薬学教育評価機構
83	がん克服シンポジウム実行委員会	寺師理事	委員	理事長	かながわ健康財団
84	県医療勤務環境改善支援センター検討会	岩出理事	委員	労働局長	神奈川労働局
85	第 20 回日本医薬品情報学会総会	加藤会長	委員	会長	(一社)日本医薬品情報学会

4. 会員の表彰

(1) 薬剤師会関係

神奈川県薬剤師会会長賞及び有功賞の受賞者表彰式

日本薬剤師会有功賞伝達表彰式

各賞受賞者祝賀会

日時：1/15（日）午後 12 時～午後 1 時 30 分

会場：パシフィコ横浜会議センター

①神奈川県薬剤師会(1/15)

《会長賞（個人）》

- ・ 寺井 康久 (相模原市)
- ・ 高尾 良洋 (病診)
- ・ 荻野 智 (小田原市)

《会長賞（団体）》

- ・神奈川県等勤務薬剤師会
- ・日本医薬品卸勤務薬剤師会 神奈川県支部

《有功賞》

- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| ・青木 秋子 | (鎌倉市) | ・石田 直子 | (逗葉) |
| ・稲垣 敬子 | (座間市) | ・今井 直 | (茅ヶ崎市) |
| ・岩野 洵 | (三浦市) | ・大草 安佐子 | (横須賀市) |
| ・加藤 孝子 | (神奈川区) | ・小町 美智子 | (南区) |
| ・密山 里子 | (藤沢市) | ・沢田 己知夫 | (平塚市) |
| ・橘 春美 | (相模原市) | ・建部 千恵子 | (中原区) |
| ・常盤 敦子 | (小田原市) | ・西方 敏雄 | (青葉区) |
| ・橋本 千鶴子 | (平塚市) | ・昆野 信綱 | (泉区) |
| ・平澤 綱一 | (小田原市) | ・福田 夏江 | (旭区) |
| ・古屋 勝美 | (小田原市) | ・松永 義明 | (神奈川区) |
| ・真弓 佐智生 | (南区) | ・村上 榮司 | (南区) |
| ・柳 房子 | (藤沢市) | ・矢野 達男 | (小田原市) |
| ・山平 尚子 | (高津区) | ・山本 忠宏 | (青葉区) |
| ・吉橋 正浩 | (多摩区) | | |

計 27 名

②日本薬剤師会

《有功賞》(4/1) (伝達表彰 1/15)

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ・相羽 靖一 | (高津区) | ・井村 伸正 | (麻生区) |
| ・入澤 惇治 | (緑区) | ・上江洲 清江 | (瀬谷区) |
| ・落合 秀美 | (三浦市) | ・加瀬 秀子 | (金沢区) |
| ・神里 迪子 | (藤沢市) | ・上田 仲古 | (港南区) |
| ・河原 正 | (南区) | ・河野 瑳智子 | (藤沢市) |
| ・斉藤 公男 | (茅ヶ崎市) | ・澤谷 信子 | (相模原市) |
| ・篠崎 京子 | (瀬谷区) | ・鶴岡 功子 | (南区) |
| ・鶴田 恵子 | (港南区) | ・寺田 節子 | (平塚市) |
| ・松島 義明 | (港北区) | ・丸山 八束 | (秦野市) |
| ・宮崎 昌子 | (泉区) | ・六車 禮子 | (藤沢市) |
| ・山岡 英子 | (小田原市) | ・渡邊 裕子 | (戸塚区) |

計 22 名

《有功賞（団体）》(10/9)

- ・大和綾瀬薬剤師会

(2) 叙勲・大臣表彰

①叙位 (11/22)

《従五位》

- ・高橋 輝一郎 (南区)

②厚生労働大臣表彰 (10/21)

《薬事功労》

- ・向井 秀人 (旭区)

③厚生労働大臣表彰 (2/13)

《公衆衛生事業功労》

- ・高橋 洋一 (中区)

- ④文部科学大臣表彰（10/27）
 《学校保健及び学校安全》
 ・渡辺 紀美枝（青葉区）

（３）県知事表彰

- ①県民功労者表彰(6/10)
 ・後藤 知良（藤沢市）

②保健衛生表彰（11/22）

《医療関係功労者》

- | | |
|--------------|---------------|
| ・荒井 俊明（小田原市） | ・橘川 博（横須賀市） |
| ・佐藤 透（病診） | ・澁澤 由紀子（相模原市） |
| ・澄川 庸二（中原区） | ・中島 康夫（西区） |
| ・中村 由紀子（平塚市） | ・橋口 章（伊勢原市） |
| ・花島 邦彦（茅ヶ崎市） | |

（４）その他各種表彰

- ①《神奈川県公衆衛生協会会長表彰》（12/2）
 ・長津 雅則

- ②《日本公衆衛生協会会長表彰》（2/13）
 ・竹内 尚子

③《学校保健功労者等表彰》（11/9）

- | | |
|--------------|---------------|
| ・相原 典子（相模原市） | ・井上 則子（相模原市） |
| ・大島 正（秦野市） | ・菊池 美和子（藤沢市） |
| ・小泉 貴子（横須賀市） | ・田所 由実子（相模原市） |
| ・林 由実子（南区） | ・廣井 三和子（座間市） |
| ・中村 昌代（小田原市） | |

- ④《かながわレッドリボン賞》（3/21）
 ・小宮 賢一（鎌倉市）

5. 会員の物故（報告分）

相沢 康子（港北区）、飯田 喜久枝（神奈川区）、入澤 惇治（緑区）、大西 一郎（川崎区）、
 木川 敬三（小田原市）、酒井 一男（戸塚区）、佐藤 日出男（三浦市）、白石 厚親（南区）、
 末木 一夫（藤沢市）、鈴木 孝之（青葉区）、高橋 輝一郎（南区）、武田 譲治（磯子区）、
 竹村 邦夫（保土ヶ谷区）、中村 健（鎌倉市）、成川 豊（幸区）、西野 桂子（伊勢原市）、
 原見 栄（中区）、半場 信吾（保土ヶ谷区）、松島 正恵（泉区）、満澤 敬子（藤沢市）
 計 20 名

6. 厚生労働省、日薬等の会議参加状況

会 議 名	開 催 日	出 席 者
日薬 関東ブロック協議会（第1回） 〈山梨〉	平成28年5月29日・30日	加藤、鶴飼、小川、唐澤、 長津
日薬 関東ブロック協議会（第2回） 〈埼玉〉	平成29年2月19日・20日	加藤、後藤、唐澤
日薬 関東・東京ブロック会議 〈茨城〉	平成28年12月18日	鶴飼、井上
日薬 都道府県会長協議会（第1回）	平成28年5月11日	加藤
日薬 都道府県会長協議会（第2回）	平成28年7月13日	加藤
日薬 都道府県会長協議会（第3回）	平成28年10月8日	加藤
日薬 都道府県会長協議会（第4回）	平成29年1月18日	加藤
日薬 第87回定時総会	平成28年6月25日・26日	加藤、鶴飼・後藤・小川、 中北・唐澤・長津
日薬 第88回臨時総会	平成29年3月11日・12日	加藤、後藤・小川、中北・ 唐澤・竹内・長津
日薬 薬局実務実習担当者全国会議	平成28年4月17日	久保田、木村
日薬 健康サポート薬局に係る研修に関 する都道府県薬剤師会担当者説明会	平成28年5月22日	高橋、宇井、堀川
日薬 健康サポートのための薬剤師の対 応研修（仮称）に係る都道府県薬剤師会 説明会	平成28年6月8日	塚本、宇井
日薬 平成28年度都道府県薬剤師会ス ポーツファーマシスト担当者研修会	平成28年11月25日	田口、日向、金田
日薬 薬局実務実習受入に関する 関東地区ブロック会議〈埼玉担当〉	平成28年12月2日	久保田、木村

会 議 名	開 催 日	出 席 者
第 29 回 関東薬事情報センター担当者連絡会議〈埼玉〉	平成 28 年 12 月 6 日	河野
関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会 社会保険担当者連絡協議会	平成 29 年 2 月 1 日	長津、花島
厚生労働省 医薬分業指導者協議会	平成 29 年 2 月 3 日	宇井
日薬 生涯学習担当者全国会議	平成 29 年 2 月 11 日	笹谷
日薬 学校薬剤師部会全国担当者会議	平成 29 年 2 月 24 日	小川、金子
日薬 学校薬剤師部会東京・関東ブロック会議〈栃木担当〉	平成 29 年 2 月 26 日	小川
日薬 研究倫理に関する全国会議	平成 29 年 3 月 16 日	金子
日薬 社会保険指導者研修会	平成 29 年 3 月 23 日	夏目、福島

会 員 の 動 向

<業 種 別 会 員 数>

(H29. 3. 31現在)

区分	薬 局				店 舗 販 売 業				その他(行政、病院、無職他)					合 計					
	I 種	II 種	賛助	計	I 種	II 種	賛助	計	I 種	II 種	III 種	賛助	計	I 種	II 種	III 種	賛助	名誉 有功	計
H26年度	2,573	1,220	330	4,123	39	18	22	79	4	641	—	13	658	2,616	1,879	—	365	14	4,874
H27年度	2,540	1,230	310	4,080	38	17	18	73	3	626	—	15	644	2,581	1,873	—	343	13	4,810
H28年度	2,527	1,232	290	4,049	39	15	17	71	3	541	58	17	619	2,569	1,788	58	324	11	4,750

[会員種別]

I 種 : 薬局・店舗販売業の経営者・管理者である薬剤師

II 種 : 第1種会員以外の薬剤師

III 種 : 満77歳以上の無職の薬剤師

賛 助 : 薬局・店舗販売業・卸売販売業の非薬剤師経営者

<入 会 者 ・ 退 会 者 数>

区分	入 会 者					退 会 者					増 減					
	I 種	II 種	III 種	賛助	計	I 種	II 種	III 種	賛助	計	I 種	II 種	III 種	賛助	名誉 有功	計
H26年度	195	103	—	7	305	234	205	—	37	476	▲ 39	▲ 102	—	▲ 30		▲ 171
H27年度	194	133	—	10	337	226	144	—	31	401	▲ 32	▲ 11	—	▲ 21		▲ 64
H28年度	222	132	0	3	357	229	157	3	25	414	▲ 7	▲ 25		▲ 22		▲ 54

●県内店舗数と会員店舗数比較

業種	H28. 3月	H29. 3月		H27. 3月	H28. 3月	
	県内店舗数	会員店舗数	加入率	県内店舗数	会員店舗数	加入率
薬 局	3,770	2,542	67.4%	3,724	2,593	69.6%
店舗販売業	1,365	41	3.0%	1,353	49	3.6%
卸売販売業	583	92	15.8%	579	83	14.3%
薬種商販売業	1	0	0%	2	0	0%
特例販売業	1	0	0%	2	0	0%
配置販売業	232	0	0%	243	0	0%
計	5,952	2,675	44.9%	5,903	2,725	46.2%

※県内店舗数は、H28. 3/31及びH27. 3/31現在の神奈川県薬務課発行『薬務行政の概要』による。

●県内薬剤師数と会員数比較

業種	H26. 12月	H29. 3月		H28. 3月	
	県内薬剤師数	会員薬剤師数	加入率	会員薬剤師数	加入率
薬 局	13,846	3,763	27.2%	3,890	28.1%
病院・診療所	3,227	111	3.4%	132	4.1%
大 学	111	27	24.3%	35	31.5%
医薬品販売業	2,757	143	5.2%	147	5.3%
行 政	363	46	12.7%	55	15.2%
その他業務	438	36	8.2%	33	7.5%
無 職	799	300	37.5%	358	44.8%
計	21,541	4,426	20.5%	4,650	21.6%

※県内薬剤師数は、H26. 12/31現在の厚労省届出薬剤師数による。

※会員薬剤師数は、賛助会員を除く数

事業報告（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

公益社団法人神奈川県薬剤師会は、平成 23 年度から地域社会の健康増進により一層の貢献をはかれる薬剤師を養成することを目的に据え、職能団体の社会的な責任として「生涯学習認定制度」を運用してきた。

本会では、医療・薬学技術の進歩および医療ニーズの変化に伴う知識・技能の修得を図るにとどまらず、地域社会の求める地域保健活動への貢献を可能とする土台を醸成することを目的とした生涯学習の更なる充実・推進を求めて、現行の生涯学習認定制度の見直しを図った。平成 28 年 10 月 6 日に本年度第 1 回臨時総会を招集して議決を得て申請することとし、平成 29 年 3 月 10 日に薬剤師認定認証機構による認定制度として認証を得た。

厚生労働省では「健康サポート薬局」制度として、平成 28 年 2 月に医薬品医療機器等法施行規則の一部を改正し、かかりつけ薬局・薬剤師の基本的な機能に加えて、地域住民による主体的な健康の保持増進を積極的に支援する機能を備えた薬局を法制度として規定した。

本会としては、健康サポート薬局の研修実施機関である日本薬剤師会並びに日本薬剤師研修センターの協力機関として、複数の委員会委員でワーキンググループを組織して研修会を企画し、全国に先駆けて早期に体制を整え 7 月 24 日に技能習得型研修会を開催した。

履修した要件を満たす薬剤師が在籍する薬局は、平成 28 年 10 月 1 日から登録を申請することができるようになった。

本会においては、前述の健康サポート薬局と平行して本会独自の基準により「くすりと健康相談薬局」制度を従前の基準薬局制度に代わり平成 27 年度から運用を開始している。県民への最適な薬物療法の提供、在宅医療・介護への関わり、健康増進・疾病予防の促進、社会保障制度の健全運営及び健全な地域社会・環境づくりが、これからの薬局に求められる機能として捉え、平成 28 年 9 月末では 191 件の会員薬局を認定するとともに広く県民に浸透されるよう学術大会でブースを開設すること等により県民に周知した。

平成 28 年 4 月の調剤（診療）報酬の改定にあっては、「かかりつけ機能」の評価に重点を置いたこれまでにない大幅な改定内容となった。特に「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括管理料」が特掲診療料の施設基準として新設されたことは重要視された。

なお、調剤報酬改定に係る会員への周知及び照会の対応のために、4 月 1 日から約 1 ヶ月の間、改定内容に精通した薬剤師を事務局内に配置して会員の便宜を図った。

また、保険調剤を支援する会員向け資料として「2016 保険薬局ハンドブック」を平成 28 年改定内容に合わせて改訂して会員の利便性の向上を図った。

平成 28 年度の新規事業としては、薬剤師向け「セルフメディケーション啓発研修会」の開催、「認知症対応力向上研修会」の開催、「薬局開設者のための研修会」の開催、「薬局プレアボイド研修会」の開催、調剤トラブル発生時注意喚起マグネットシートを製作するなど事業を着実に推進した。

I 公益目的事業

※ ＜ ＞は、担当の委員会等を示す

1. 薬学・薬業の進歩発展に関する事業

(1) かながわ薬剤師学術大会の開催 ＜学術大会実行委員会＞

薬学の進歩発展、医療水準の向上等のため、薬剤師学術大会を神奈川県病院薬剤師会と共同で、平成 29 年 1 月にパシフィコ横浜において 15 回目を開催した。

特別講演並びにシンポジウムは多剤併用の患者で、薬剤による有害事象が起こっている状態への対処「ポリファーマシー」をテーマに編成し、市民向けの公開講座、会員発表及び健康身体測定などを実施した。

県薬と県病薬との共同開催は 15 回目を迎え、薬剤師はもとより広く県民に参加して有意義であったと感じてもらえる大会にすべく鋭意綿密な運営を行なった。地域の中で薬剤師が求められる資質、その役割を十分に果たせることができるよう、プログラムを編成した。

- ・ 日程： 1 月 15 日
- ・ 大会テーマ：薬剤師ルネサンス～今、真価が問われる～
- ・ 後援：神奈川県、横浜市健康福祉局
- ・ 特別講演：国立病院機構栃木医療センター 内科医長 矢吹 拓 氏
『ポリファーマシーを考える～多職種連携の取組紹介～』
- ・ 市民公開講座：哲学者 岸見 一郎 氏
『嫌われる勇氣』
- ・ 参加費：会員一事前 3,000 円、当日 4,000 円、非会員一6,000 円、薬学生一1,000 円
ポスター・リーフレット：600 枚を作成し、病院・薬科大学等に配布。
- ・ 大会出席者数：合計 1,504 名 ＜前回 1,274 名＞

神奈川県病院薬剤師会：683 名（619 名）、神奈川県薬剤師会：802 名（639 名）
薬学生：19 名（16 名） カッコ内は前回第 14 回の参加者数



	第 15 回			第 14 回		
	事前	当日	計	事前	当日	計
会員	988	296	1,284	908	246	1,154
非会員	89	131	220	43	77	120
合計	1,077	427	1,504	951	323	1,274

・ 第 15 回かながわ薬剤師学術大会 優秀賞（敬称略）

口頭発表 2 題、ポスター発表 3 題

口頭発表【2 題】

改訂モデル・コアカリキュラムに向けた港北区薬剤師会の取り組みの現状
港北区薬剤師会 和田 野歩 他

リウマチ患者に対するメトトレキサートの服薬支援とその有用性に関する検討
医療法人社団緑成会 横浜総合病院 薬剤科 小川 寿子 他

ポスター発表【3 題】

腎機能チェックカード導入前後の疑義照会分析

社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院 薬剤課 坂本 光咲 他

DI 室と病棟薬剤師の連携による RMP 利活用への取組み

東海大学医学部付属病院 薬剤部 宇井 友佳子 他

地域薬剤師会における市民啓発活動（第 2 報）

中学生のための初級薬学講座～薬の秘密を確かめよう

公益社団法人相模原市薬剤師会 白井 美結 他

- ・第 15 回かながわ薬剤師学会大会への各委員会発表について <医療・介護保険委員会他> 以下の 5 委員会より、下記演題について発表が行われた。
 ア 医療・介護保険委員会：「神奈川県薬剤師会 医療・介護保険委員会による介護・在宅分野における研修会に対する実態調査」〈口頭発表〉
 イ リスクマネジメント委員会「(公社) 神奈川県薬剤師会に於ける薬局プレアボイド事業について」〈ポスター発表〉
 ウ 医薬品適正使用調査委員会：「平成 27 年度医薬品適正使用啓発事業におけるアンケート調査結果報告 ―県民への医薬品情報提供等の調査結果報告―」〈ポスター発表〉
 エ 地域保健委員会：「セルフメディケーション研修会後の意識変化と取り組みについて～国民の健康を支援するために薬剤師が何をすべきか考えよう～」〈ポスター発表〉
 オ 公衆衛生・学薬委員会：「神奈川県立学校における学校環境衛生検査の実施状況報告」〈ポスター発表〉
- ・お薬相談・身体測定・献血実施者数

区分	第 15 回	第 14 回
お薬相談	27	29
血管年齢測定	383	287
骨健康度測定	353	385
献血	144 (受付 180)	124 (受付 172)
計	907	825

※血管年齢測定機器は第 15 回から 1 台増設して 3 台体制

- (2) 日本薬剤師会学会大会への参加・発表 <医療・介護保険委員会他>
 日本薬剤師会が愛知県で 10 月に開催された学会大会において、4 委員会は次により発表した。
 - ・ 医療・介護保険委員会：「介護・在宅分野における研修会に対する評価の実態調査」〈口頭発表〉
 - ・ リスクマネジメント委員会「模擬調剤事故検討会の検証について」〈ポスター発表〉
 - ・ 地域保健委員会：「神奈川県民向け「薬局・薬剤師活用度アンケート」調査から見えるもの～セルフメディケーションに関する意識とかかりつけ薬局の今後の課題～」〈口頭発表〉
 - ・ 医薬品適正使用調査委員会：「平成 27 年度医薬品適正使用啓発事業におけるアンケート調査結果報告 ―県民への医薬品情報提供等の調査結果報告―」〈ポスター発表〉

(3) 薬学研究への助成 <管理課>

平成 24 年度に事業が新設され、薬学の進歩発展に資するため、本年度は 3 件に対し助成金を交付した。補助対象者決定に際しては、本会に選考審査会を設置し審査のうえ、常務理事会において決定した。(総額 100 万円)

- ・募集期間：5 月 2 日～9 月 30 日
- ・広報：当会ホームページにて周知
- ・採択補助事業：3 件 (平成 27 年度：2 件)

地域包括ケアを真に推進するための有効な方法の検討ーモニタリングカード活用による初期認知症患者等の検索研究

服薬困難の実態及び係るコストの算出と簡易懸濁法を用いた嚥下困難者への薬剤経口投与の可能性の検討ー在宅療養高齢者に対して、薬剤師が貢献できる服薬支援とは～

地域包括ケアシステムにおける多職種連携促進のための薬剤師教育プログラムの開発と効果検証有用性

(4) 臨床薬学研究に関する倫理審査 <倫理委員会>

① 臨床薬学研修審査等研修会の開催

研究責任者及び研究者に対して、標記研修会を開催する予定だったが、まずは倫理審査の重要性を啓発するためリーフレットの作成について検討した。

- ② 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針・ガイドンス」の制定・交付を受けて、本会「臨床研究における倫理審査に関する規則」を廃止し、新たに「人を対象とする医学・薬学系研究の倫理審査業務手順書」を制定した。

(5) 薬学生育成に関する事業 <実務実習委員会>

認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップを3回開催した。今年度は平成31年度から実施される改定コアカリ準拠の実務実習を理解するための内容となっており、全国共通のプログラムを利用した。

また、実務実習生受け入れに係る課題協議のため、地域薬剤師会実務実習担当者会議を2回開催した。(8/4、12/8) 12月は大学教員も交えて、改訂コアカリ等について意見交換した。

認定実務実習指導薬剤師の認定開始から5年が経過した方を対象に、認定実務実習指導薬剤師更新講習会を年3回開催した。

・ 関東地区調整機構認定実務実習アドバンスワークショップ

ア 第9回 9月25日 出席者:60名〈県薬43名、県病11名、大学6名〉

(会場: 横浜薬科大学)

イ 第10回 10月2日 出席者:29名〈県薬21名、県病5名、大学3名〉

(会場: 昭和薬科大学)

ウ 第12回 10月30日 出席者:28名〈県薬20名、県病5名、大学3名〉

(会場: 昭和薬科大学)

・ 認定実務実習指導薬剤師更新講習会

ア 第1回 6月12日 出席者:29名 (会場: 神奈川県薬事保健センター)

イ 第2回 11月13日 出席者:25名 (会場: 北里大学)

ウ 第3回 2月5日 出席者:17名 (会場: 藤沢市薬事センター)

2. 児童・生徒等に関する事業 <公衆衛生・学薬委員会>

(1) 学校環境衛生管理事業

・ 県立学校の環境衛生検査

平成27年度同様に本会が受託することとなり、円滑な検査が実施できるよう県教育委員会と連携し、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき検査を実施した。

ア 県立学校環境衛生管理事業(ビル管理事業)の実施(第一該当校68校、第二該当校10校)

イ 県立学校室内空気中化学物質濃度検査(シックハウス検査17校)

・ 環境衛生管理技術者の養成

県教育委員会からの受託事業である環境衛生管理技術者の養成について、資格取得希望者を募集したが、本年度は養成者を出すことができなかった。

・ 県立学校給食調理場定期検査

衛生管理基準に基づき学校薬剤師による検査として、本年度も昨年同様特別支援学校26校で実施した。

(2) シンナー等薬物乱用防止啓発

県より委託（100校×3千円=300千円）を受け、県下の公立及び私立の小・中・高校生並びに教職員、PTA等を対象に、学校薬剤師が講師となりシンナー等薬物乱用防止啓発講演会等を実施した。（小学校127校、中学校72校、高校11校、その他5件 計215件実施）

学校におけるシンナー等薬物乱用防止活動実施状況

区 分	平成 28 年度		平成 27 年度		平成 26 年度	
	校数	生徒数	校数	生徒数	校数	生徒数
高等学校	11	2,427	22	5,420	25	7,031
中等教育	—	—	—	—	1	36
一貫校	1	112	2	998	—	—
中学校	72	11,672	62	12,217	55	8,753
小学校	127	11,177	160	12,092	120	9,690
PTA等	4	275	2	310	4	178
計	215	25,663	248	31,037	205	25,688

① 小・中高生向け教材「ダメ、ゼッタイ」パンフの増刷

小学生向けリーフレットを10,000部、中高生向けパンフを7,000部増刷した。

(3) 医薬品適正使用教室の推進

学習指導要領の改正に伴い、平成24年度より中学校の保健体育に「くすり教育」が必修化され、高等学校においては平成25年度から、より専門的な「くすり教育」が開始されていることから、授業用の資材を提供している。



① 書籍・DVDの購入

学校薬剤師新人教育用として、(公財)日本学校保健会作成の学校薬剤師支援資料DVD「学校薬剤師の役割と責任」を購入して地域薬剤師会に周知した。

(4) 学校保健向上事業

① 5年経験者研修講座への講師派遣

県教育委員会の依頼により、薬物の恐ろしさや正しい知識を伝える教職員の指導力を高めるため、教職員5年経験者に対し薬物乱用防止啓発に関する講義を行った。

日 程：5月16日、17日、23日、24日

会 場：神奈川県立総合教育センター善行庁舎 大講堂

内 容：「児童・生徒指導における薬物乱用防止の視点」

講 師：公衆衛生・学薬委員会 委員延べ4名

総出席者数：922名

② 「学校医・学校歯科医・学校薬剤師執務必携ハンドブック改訂版」の再改訂

本書については、平成16年度改訂から12年が経過しておりその間に発信された各種通知等にて業務内容が変更されている案件も散見されることから、県三師会協働により改訂の提案があり、平成28年度に内容を三師会で分筆して平成29年度に冊子として印刷製本することになっている。

3. 医薬品適正使用に関する事業

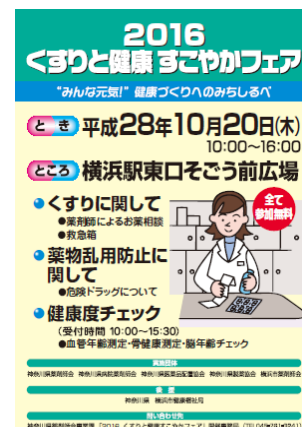
- (1) くすりと健康すこやかフェアの開催（薬業5団体で開催）〈公衆衛生・学薬委員会〉
医薬品の適正使用など、健康な社会づくりの普及啓発を図るため、関係団体との共催により薬と健康の週間に合わせてフェアを開催した。

日 時：10月20日 10:00～16:00 開催

会 場：新都市プラザ（そごう横浜店前）

参加者：約2,000名

- ・ 展示ブース アンケート 629名
- ・ 健康度チェックコーナー
脳年齢測定 151件、血管年齢測定 346件、健骨度測定 378件
- ・ お薬相談 45件
- ・ 5団体 県製薬協会、県医薬品配置協会、県病院薬剤師会、
横浜市薬剤師会、県薬剤師会



《ポスター》

- (2) 薬と健康の週間事業の支援
10月17日から23日において、医薬品及び薬剤師等の役割に関する正しい認識を広く国民に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的とし、本年度は「かかりつけ薬剤師・薬局」の普及・啓発を主なテーマに、次の資料を28の地域薬剤師会、および会員薬局に配布し、地域住民に啓発活動を実施した。
- ・ 薬と健康の週間ポスター（厚生労働省作成）2,663部
 - ・ PMDAポスター（医薬品医療機器総合機構作成）2,663部
 - ・ 「決めよう、1つの薬局に 探そう、信頼できる「かかりつけ薬剤師」を！」ポスター（日本薬剤師会作成）2,663枚
 - ・ 「知っておきたい薬の知識」リーフレット（厚生労働省作成）5,030部
 - ・ セルフメディケーションハンドブック（日本一般用医薬品連合会作成）2,000部
 - ・ 「決めよう、1つの薬局に 探そう、信頼できる「かかりつけ薬剤師」を！」リーフレット（日本薬剤師会作成）133,150部

- (3) 医薬品適正使用検討及び調査事業

① 医薬品適正使用の検討

県民の医薬品適正使用の更なる充実に資するため、セルフメディケーション、認知症対応力の向上及び保険薬局掲示板の作成について検討した。

- (4) セルフメディケーションの推進 〈地域保健委員会〉

① 啓発ポスター・新聞広告〈地域保健委員会〉

県民自ら、自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で管理を行うセルフメディケーションを推進するため、ポスター・ステッカーの作成、配布及び新聞広告の掲載などを実施した。

- ・ポスター（2,700 枚）及び新聞広告



《ポスター 薬壺 7・8 月号同封》



《ポスター 薬壺 11・12 月号同封》



《ポスター 薬壺 1・2 月号同封》



《新聞広告 10/14 掲載 神奈川・毎日・読売新聞》
（＊3 段 1/2 105×192mm）



《新聞広告 3/21 掲載 神奈川・毎日・読売新聞》
（＊3 段 1/2 105×192mm）

② 健康測定機器による健康相談の推進 ＜事業課＞

健康測定機器については、昨年度に続き本年度も 4 台をリース等し、地域薬剤師会及び会員薬局に概ね 7 日間を目途として貸出しを実施した。

- ・貸出機器及び貸出件数

脳年齢・血管年齢・健美瘦チェック器	〈28 件〉
血管年齢計	〈27 件〉
骨健康測定器	〈27 件〉
肺年齢計	〈17 件〉
血圧計 1 台	〈8 件〉
環境放射線モニタ 2 台	〈1 件〉
計 7 台	〈108 件〉

③ 啓発グッズ作成

県民啓発用グッズとして入浴剤 5,000 個を作成し、くすりと健康すこやかフェア及び地域薬剤師会が実施した健康イベント等で県民に配布した。



《入浴剤》



④ セルフメディケーション推進

より一層、県民にセルフメディケーションを啓発して定着・促進するために会員薬局において掲示するステッカーを 1,000 部作成して在宅医療支援薬局 639 件に配布した。



《セルフメディケーションステッカー》



⑤ 薬剤師向けセルフメディケーション啓発研修会の開催 <地域保健委員会>

薬局・薬剤師が地域に密着した健康情報の拠点であることを、県民に対して啓発し続けることを目的として研修会を開催した。また、薬剤師の意識向上につなげるためのセルフメディケーションに対する取り組みについてアンケートを実施した結果を踏まえて第2回研修会を開催した。

第1回 8月21日 セルフメディケーション研修会 ～総論編～

- 内 容：・協会けんぽの取り組みについて
・薬局薬剤師に期待すること（健康食品と消費者）
・スモールグループディスカッション

参加者：55名

第2回 2月5日 セルフメディケーション研修会 ～各論編～

- 内 容：・プライマリーケア・セルフメディケーションの実践について
・症例検討：スモールグループディスカッション

出席者：73名

⑥ 健康サポート薬局に係る技能習得型研修会の開催

平成28年2月、厚生労働省より、医薬品医療機器等法施行規則の一部を改正する省令及び健康サポート薬局の基準告示が公布された。円滑な運営をするために、日本薬剤師会と連携のもとに研修事業を実施した。

ア 日本薬剤師会が実施する多職種連携研修会

- ・ 5月22日 日本薬剤師会が実施する多職種連携研修会
- ・ 6月28日 健康サポートのための薬剤師研修に関わる説明会 3名参加

イ 研修会の開催に向けたワーキンググループの開催

- ・ 6月21日 第1回健康サポート薬局ワーキンググループ
- ・ 7月7日 第2回健康サポート薬局ワーキンググループ
- ・ 7月20日 健康サポート薬局ワーキンググループ研修準備会
- ・ 1月15日 かながわ薬剤師学会大会における「くすりと健康相談薬局」ブース担当

ウ 健康サポート薬局にかかる技能習得型研修会の開催

- ・ 7月24日 神奈川県薬剤師会 (189名)
 - ・ 8月28日 湘南東エリア (42名 共催)
 - ・ 8月28日 横浜市薬剤師会 (94名 共催)
 - ・ 9月11日 相模原市薬剤師会 (69名 共催)
 - ・ 9月22日 小田原薬剤師会 (54名 共催)
 - ・ 9月22日 川崎市薬剤師会 (93名 共催)
 - ・ 11月6日 大和綾瀬薬剤師会 (17名 共催)
 - ・ 11月13・27日 平塚中郡薬剤師会 (22名 共催)
 - ・ 2月12日 横浜市薬剤師会 (72名 共催)
 - ・ 11月27日・3月12日 横須賀市薬剤師会 (28名 共催)
- 受講証明書発行枚数 (680名)

⑦ 医薬品販売制度対応に関する自主点検の実施 <地域保健委員会>

平成26年6月に施行された医薬品の取扱い状況について、日薬からの医薬品販売制度対応に関する自主点検の依頼に基づき、本会会員薬局宛てにアンケート調査等を行った。その結果は次のとおりである。

会員薬局からのアンケート報告結果：788 依頼薬局数 2,548

取扱い区分	延べ報告数	%
要指導医薬品	267	33.9%
第一類医薬品	364	43.2%
第二類医薬品	491	62.3%
第三類医薬品	521	66.1%
取扱いなし	119	15.1%

6月24日付 「医薬品販売制度対応に関する自主点検の実施について依頼」 (薬壺同封)

○高齢者・認知症を対象とする薬剤師レビュー・ワークショップへの参画<地域保健委員会>

2月11日～12日、上田薬剤師会における、平成28年度薬剤師生涯教育推進事業に2名参加した。(うちファシリテーター1名)

(5) くすりと健康相談薬局の推進 <くすりと健康相談薬局運営協議会>

平成27年度に日本薬剤師会認定基準薬局制度に代わる新たな薬局制度としてスタートした「くすりと健康相談薬局」制度は、平成28年9月1日に新たに73薬局を認定薬局とし、県内計191薬局が本制度の認定薬局となった。

- ・ 申請期間：5月10日～6月30日
- ・ 申請薬局数：83薬局
- ・ 認定薬局：73薬局(計191薬局)
- ・ 認定証交付式：9月4日
- ・ 認定期間：平成28年9月1日～平成31年8月31日
- ・ 認定薬局への配布物：
 - ステッカー・県民向けチラシ・残薬バッグ・ウェットティッシュ
- ・ 県民周知：ホームページ掲載、くすりと健康すこやかフェアでチラシ



《県民向けチラシ》

を配布、「くすりと健康相談薬局」を会員・県民へ周知するため、かながわ薬剤師学術大会にてブースを設置し、PR活動を行った。また、会報誌「薬壺」にて認定薬局インタビュー記事の連載を開始した。なお、新聞広告（年間2回予算計上）については費用対効果の観点より再検討した結果、掲載見送りとした。

（6）薬事情報センターの充実

厚生労働省、日本薬剤師会や製薬メーカー等から新医薬品や副作用等の情報収集に努め、会員や医師・県民などからの医薬品、化学物質、医療保障制度等の相談に応じ、医薬品の適正使用の推進、薬害の防止などに貢献した。

本年度相談件数 2,137 件 （昨年度相談件数 2,245 件）

		会員・ 薬剤師	医師会・ 歯科医師会	その他	計	%	28 年度 累計	27 年度 同期
1	薬品一般	13	2	15	30	0	30	21
2	保険・薬価・ 再評価	2,015	0	0	2,015	1	2,015	2,102
3	副作用・毒性・ 相互作用・催奇形性	3	0	4	7	0	7	2
4	文献・新聞	0	0	0	0	0	0	0
5	誤飲・誤用・リスク	8	0	0	8	0	8	21
6	ドーピング	0	0	0	0	0	0	3
7	薬事関係法規	77	0	0	77	0	77	95
8	その他	0	0	0	0	0	0	1
	計	2,116	2	19	2,137	1	2,137	2,245

注 4 月の調剤報酬改定時の薬剤師による照会対応は別途約 150 件あり。

4. 医療安全に関する事業

（1）「神奈川県医療安全推進セミナー」への参画 ＜リスクマネジメント委員会＞

本会をはじめ医療関係団体が参画する神奈川県医療安全対策事業実行委員会において、1 月 28 日（土）に「～原点に返り、もう一度、見つめ直そう安全と安心～」をメインテーマに掲げ、安全で安心、信頼される医療サービスの提供を推進する目的で開催した。

会 場：神奈川県総合医療会館

内 容：講演Ⅰ 「医療事故の法的責任と記録の重要性」

講師 加藤 慎 氏（加藤法律事務所 弁護士）

講演Ⅱ 「気持ち伝わるコミュニケーション」

— 患者・家族との良好な関係を目指して —

講師 能村 仁美 氏

（SOMPOリスクケアマネジメント株式会社 主任コンサルタント）

主 催：神奈川県医療安全対策事業実行委員会

（神奈川県・神奈川県医師会・神奈川県病院協会・神奈川県看護協会・神奈川県薬剤師会・
神奈川県歯科医師会）

（2）高度管理医療機器の継続研修会の開催 ＜管理課＞

薬事法の改正により平成 17 年 4 月から、医療機器の品質管理などのため、医療機器販売業務の営業管理等に係る研修受講が毎年必須であることから、日本薬剤師会との共催により 4 回開催し、692 名が参加した。

日 時：第 1 回 11 月 17 日（14 時～16 時） 第 2 回 11 月 17 日（18 時～20 時）

第 3 回 2 月 19 日（10 時～12 時） 第 4 回 2 月 19 日（14 時～16 時）

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

出席者：第1回 11月17日 186名(会員156名・非会員30名)

第2回 11月17日 178名(会員145名・非会員33名)

第3回 2月19日 182名(会員144名・非会員38名)

第4回 2月19日 146名(会員95名・非会員51名)

講 師：原田 哲夫 氏(神奈川県薬剤師会元理事)

(3) 薬害関連資料収集検討 <広報出版委員会>

薬害の根絶など、安全な社会づくりのため、これまでの薬害事例に学ぶことは重要である。そのため、事業の一環として薬害史年表の作成を進め、詳細に検討を行った。作成中の年表については今後、薬壺に掲載予定である。

なお、薬壺1・2月号より「薬害関連収集検討事業―薬害の歴史について」の連載をスタートし、第1回は「サリドマイド禍」、第2回は「ジフテリア予防接種禍」について掲載した。

○DEM事業への参加

日本薬剤師会が例年実施する本事業に取り組んだ。

- ・調査時期：平成28年7月4日(月)～10日(日)
- ・テーマ：NSAIDs等の皮膚用外用剤(15成分)によるイベント発現等の調査
- ・調査対象医薬品(皮膚用外用剤)

ジクロフェナクナトリウム、インドメタシン、フェルビナク、
イブプロフェンピコノール、フルルビプロフェン、ケトプロフェン、
ロキソプロフェンナトリウム水和物、スプロフェン、
エスフルルビプロフェン、ピロキシカム、ウフェナマート、ベンダザック、
ブプレノルフィン、フェンタニル、フェンタニルクエン酸塩

5. 公衆衛生に関する事業<公衆衛生・学薬委員会>

(1) 献血事業への協力、推進

第15回かながわ薬剤師学術大会において献血推進活動を行った。(再掲)

- ・献血受付者数 180名
- ・不適者数 36名
- ・実献血者数 144名

(2) 薬物乱用防止の啓発

① 街頭キャンペーン

- ・「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン

主催：薬物クリーンかながわ推進会議、神奈川県、神奈川県薬剤師会

(7月19日 横浜駅東口そごう前 啓発資材2,000個配布)

- ・平成28年度薬物乱用防止「成人の日」街頭キャンペーン

主催：薬物クリーンかながわ推進会議、神奈川県、横浜市、神奈川県薬剤師会

(1月9日 新横浜駅北口 啓発資材2,000個配布)

② 危険ドラッグ防止啓発グッズ作成

危険ドラッグ啓発グッズとしてマスク10,000個を作成し、くすりと健康すこやかフェアでノベルティとして配布したほか、街頭キャンペーンやかながわ薬剤師学術大会等で配布した。



《マスク包装紙の表面》

③ 危険ドラッグ対策事業補助

本会と地域薬剤師会とで危険ドラッグに関与しないよう、県民に向けた啓発事業を共同で実施するための補助金制度を創設した。(申請実績はなし)

(3) 公衆衛生に関する県民向け研修会の開催

(公衆衛生研修会)

公衆衛生に係る啓発については、これまでの学校における啓発活動等に止まらず、更なる衛生意識の向上のため、身近な公衆衛生に関するテーマについて開催しており、平成 28 年度は災害時における薬剤師の専門性を活かすためとその必要性について、薬剤師・医師・歯科医師・学校関係者のみならず、広く一般県民にも参加可能な研修会として開催した。

日 程：10 月 23 日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 1 階多目的ホール

内 容：「災害時における避難所での公衆衛生について」

講 師：ミツワ薬局 金子 弘之 氏

出席者：66 名（会員 42 名、非会員 24 名）

(4) かながわ健康財団等事業への参画

- ・「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に伴う街頭キャンペーン

主催：かながわ青少年社会環境健全化推進会議、神奈川県子ども・青少年みらい本部、横浜市、川崎市

川崎会場 7 月 23 日 川崎フロンパーク

横浜会場 7 月 30 日 日産スタジアムトリコロールランド

- ・「子ども・若者育成支援強調月間」に伴う街頭キャンペーン

主催：かながわ青少年社会環境健全化推進会議、薬物クリーンかながわ推進会議、神奈川県子ども・青少年みらい本部、横浜市、川崎市

横浜会場 10 月 22 日 日産スタジアム東ゲート前広場

川崎会場 11 月 18 日 J R 武蔵溝ノ口駅前ペDESTリアンデッキ

- ・「健康チャレンジフェアかながわ」への参加

主催：健康チャレンジフェアかながわ実行委員会（かながわ健康推進財団）

日程：11 月 27 日

会場：クイーンズスクエアサークル（みなとみらい）

(5) 地域自殺対策強化研修会の開催

近年、平成 15 年度には年間約 3.5 万人に上った自殺者数は、昨年度は 2.4 万人まで減少し、4 年連続で 3 万人を下回ったが、地方公共団体をはじめ、医療機関、自殺防止等の活動を行う民間団体等と密接な連携を図るなど、地域における自殺の実態の把握や対応の強化が求められている。

こうした背景を踏まえ、自殺予防において、ゲートキーパーたる薬剤師が様々な団体との連携により、自殺対策にどのような役割を果たすことができるかなどを考察するため、同研修会を開催した。

日 程：2 月 8 日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 303・304 号室

内 容：「自殺予防における他職種連携の必要性和薬剤師の役割
～救命救急センターでの自殺未遂者対応の経験から～」

講 師：横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター 日野 耕介 氏

出席者：56 名（会員 33 名、非会員 23 名）

6. 地域医療に関する事業

(1) 保健、医療、福祉関係者との連携強化による在宅医療・介護の推進

① 「在宅医療研修会」の開催 ＜医療・介護保険委員会＞

昨年度に引き続き、平成 28 年度神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金を活用し、訪問薬剤管理指導を行うことができる薬局薬剤師を積極的に育成することを目的とした研修会を本会主催並びに地域薬剤師会との共催により開催した。

本会主催で 1 回（12 月）、各地域薬剤師会との共催で 5 回、計 6 回にわたり研修会を実施した。併せて、在宅医療に貢献できることを多職種へアピールすべく「在宅認定薬剤師」の認定を行った。

このほか、在宅医療を推進するため、「在宅医療支援薬局リスト」を更新し、冊子の作成及びホームページにて公開を行った。

《本会主催分》

日 程：12 月 18 日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

内 容：①「在宅医療において在宅医師が薬剤師に求めるフィジカルアセスメントについて」

講師：横浜市立大学医学部医学科 総合診療医学教室准教授 日下部 明彦 氏

②スモールグループディスカッション

テーマ「在宅医師が薬剤師に求めるフィジカルアセスメントの習得」

出席者：74 名

《共催研修会》

ア 6 月 30 日 泉 区 薬 剤 師 会 36 名参加

イ 10 月 23 日 小田原薬剤師会 47 名参加

ウ 11 月 10 日 海老名市薬剤師会 15 名参加

エ 11 月 9 日 横須賀市薬剤師会 56 名参加

オ 2 月 9 日 相模原市薬剤師会 77 名参加

共催出席者：231 名

出席者総数：305 名

② 在宅医療支援薬局リスト及びステッカーの作成＜医療・介護保険委員会＞

多職種協働の推進や医療と介護の連携の必要性から、医療及び介護に従事される方々の利便に應えるべく、在宅医療支援薬局リストを昨年同様公募方式にて作成し、本会ホームページで公開するとともに本リストの冊子を在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、介護支援専門員施設等へ合計 1,998 冊配布した。

なお、本リストは、平成 24 年の調剤報酬改定時、厚生局神奈川事務所が開催した改定説明会において、施設基準の「在宅患者調剤加算」の届出要件において『(4) 地方公共団体、医療機関及び福祉関係者等に対して、在宅業務実施体制に係る周知を自ら又は地域の薬剤師会等を通じて十分に行っていること。』の要件に相当するリストとして紹介された経緯がある。

〈本年度本リスト掲載薬局数：639 件（昨年度：600 件）〉

また、県民向け標識として右記ステッカーを 700 枚作成し、同リスト掲載薬局へ配布した。

《在宅医療支援薬局ステッカー》



③ 認知症対応力向上研修会の開催＜地域保健委員会＞

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に対応すべく、薬剤師が認知症に関する基礎的な知識を習得し、他職種と連携して認知症を支える必要性は年々高まりをみせている。また新オレンジプランにおいて薬剤師は、「服薬指導等を通じて高齢者等と接する中で、認知症の疑

いある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、その後も認知症の人の状況に応じた服薬指導等を適切に行う（抜粋）」と明記されていることから標記研修会を開催した。

日 程：11月6日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

内 容：・認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）と県の取組

神奈川県保健福祉局福祉部高齢福祉課 彦根 倫子 氏

・認知症ケア～薬剤師に求められること～

北里大学医学部 精神科学 大石 智 氏

・認知症対応力向上研修（伝達講義＋DVD視聴）

出席者：56名（会員33名、非会員23名）

④ 福祉関係者等との連携強化 ＜医療・介護保険委員会＞

ア 神奈川県介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修への協力＜医療・介護保険委員会＞

神奈川県が主催する神奈川県介護支援専門員研修に協力し、本会の推薦により派遣された医療・介護保険委員会委員が、専門研修課程の一部を担当し、本委員会で作成したテキストに基づき介護支援専門員の育成を支援した。

（実施機関及び回数）

- ・公益財団法人総合健康推進財団 4回（7月5日、7月14日、12月15日、1月12日）
- ・神奈川県社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会、川崎市社会福祉協議会（合同開催）1回（9月29日）
- ・学校法人西田学園 1回（11月1日）
- ・合同会社介護の未来 1回（11月29日）
- ・神奈川県社会福祉協議会、横浜市社会福祉協議会 1回（1月18日）

イ 神奈川県薬務課が実施する「お薬出前講座」への協力＜医療・介護保険委員会＞

神奈川県が実施している出前講座のうち、薬務課が主催する医薬品適正使用に関する出前講座に地域の団体より「くすりに関する講演会」開催の要望があり、医療・介護保険委員会の委員を中心に地域の会員がこれに協力して対応した。

開催日	団体名	地区	対象者
7月23日	寿東部保護司会	横浜市南区	40名
7月23日	西一絆会	相模原市南区	30名
10月3日	中井町老人クラブ連合会	足柄上郡中井町	50名
12月2日	山北町老人クラブ連合会	足柄上郡山北町	100名
12月7日	睦クラブ（老人会）	川崎市高津区	20名
2月8日	南足柄市老連	南足柄市	300名
2月23日	秦野市老人クラブ連合会	秦野市	70名

（2）薬・薬連携の強化と相互の質的向上 ＜医療・介護保険委員会＞

① 県病薬との合同研修会の開催

- ・平成28年度 薬薬連携推進のための病院薬剤師会と薬剤師会の合同研修会の開催
薬局薬剤師と病院薬剤師相互の業務理解を目的に据え、薬薬連携体制強化の一環としての研修会を開催した。

日 程：11月17日

会 場：あつぎ市民交流プラザ 7階 amy studio

出席者：80名（県薬：45名 県病：35名）

- ・褥瘡治療薬サミット in かながわ2017の開催

病棟から在宅まで切れ目のない医療を提供し、医師や看護師などと一丸となって褥瘡を患っている患者さんに早く治癒してもらうためには、薬局及び病院に従事する薬剤師による「褥瘡」に対する薬物治療への積極的な参画を推進することが肝要と捉え、医師等との協働薬物治療管理の実践につなぐための研修会を神奈川県病院薬剤師会と共同で開催した。

日 程： 1 月 29 日

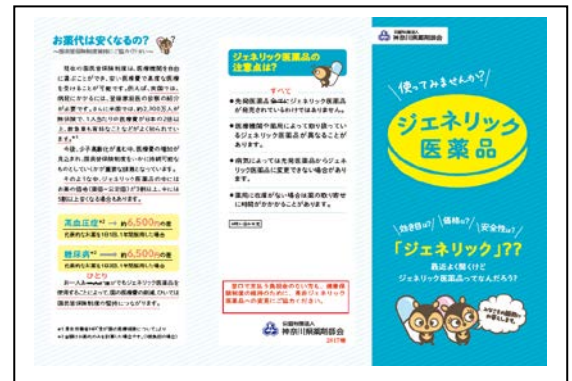
会 場：横浜市立大学福浦キャンパス 看護教育研究棟

出席者：84 名（県薬：40 名 県病：44 名）

（3）県民向けリーフレットの増刷

＜医療・介護保険委員会＞

- ① 「後発医薬品県民向けリーフレット」の増刷
健康保険制度の維持のために、ジェネリック医薬品使用促進のためのリーフレットの内容を見直して 10 万部の増刷を行った。



（4）医薬分業の質的向上 ＜医療・介護保険委員会＞

新 ① 平成 28 年度診療報酬改定に伴う小冊子作成

ア 「平成 28 年度調剤報酬点数表等改定資料」

各地域薬剤師会及びエリアが開催する調剤報酬改定研修会を支援するために 3,000 部作成し、各地域が独自に開催する研修会資料として使用されるよう配布した。

イ 「2016 保険薬局ハンドブック」の改訂

第 1 版（平成 26 年度刊行）の見直しを図り、第 2 版を作成して会員薬局へ送付した。

ウ 「院外処方せんの正しい書きかた（改訂 7 版）」の改訂

内容の見直しを図り、ホームページにて公開することにより医療関係者に対して周知を図った。

② 保険研修会の開催

管理薬剤師、勤務薬剤師及び医療事務担当者（基礎編のみ）を対象に、基礎編は講習会形式で、実践編は講習とスモールグループディスカッション形式により調剤報酬、健康保険及び公費負担医療等の研修会を開催した。

基礎編

- ・ 保険調剤の理解のために 調剤報酬点数表及び留意事項
 - ・ 医療保険制度について 医療保険制度・公費負担等の概要について
- （基礎編）合計 139 名 12 月 8 日開催 59 名、3 月 2 日開催 80 名

実践編（薬剤師向け）

- ・ 薬剤服用歴管理指導簿の効率的な記載方法について
- ・ 服薬指導の実践及び薬剤服用歴管理指導簿の作成（SGD 形式）
- ・ 各班成果発表及び要点整理し、薬剤服用歴管理指導簿の記載方法について解説

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

（実践編）合計 78 名 9 月 24 日開催 17 名、11 月 20 日開催 33 名、2 月 9 日開催 28 名
（基礎編・実践編合計 217 名）

③ 疑義照会並びに重複投薬相互作用等防止加算実態調査の実施

平成 28 年 4 月の調剤報酬改定において、重複投薬相互作用等防止加算は大幅に改定され、薬剤師が疑義照会を行い処方変更が行われた場合に算定することとなった。日本薬剤師会が公表した「2015 年度全国薬局疑義照会調査」によると全国平均の疑義照会率は 2.56%であるのに対し、本調査における疑義照会率は 4.92%という「全国平均より高い数値」という結果となった。また、重複投与・相互作用等防止加算についての疑義照会について、薬学的見地による処方内容の変更が行なわれた事例は 20.51%となり、処方せんの監査に積極的であることが予想される結果となった。

〈調査結果（抜粋）〉

	処方せん受付	疑義照会回数	重複投薬相互作用等 防止加算
総 計	99,579	4,900	1,005
平 均	1,747	85.96	17.63
率 (%)		4.92	1.01

※60 薬局に調査協力依頼し、58 薬局より回答があった。回答内容の不備等によって 1 薬局の調査結果は除外し、57 薬局より提出のあったアンケート用紙を用いて新潟薬科大学に解析を委託した。

○ 次期調剤報酬・介護報酬改定に向けた意見・要望の取りまとめ

日本薬剤師会より、改定に係る意見募集の通知があり、ホームページ・メールマガジンにより会員に対して広く募集を行なった。収集した意見を精査し、会員の意見を総括し本会の意見として提出した。〈意見総数：59 件〉

（5）外国籍県民に対する保健・医療・福祉の支援（HP 等の対応）〈事業課〉

昨今の健康志向は日本のみならず、外国籍県民の方々においても関心が高く、県内の薬局・店舗販売業の店頭に見える姿を以前に増して多く見かけるようになった。こうした背景を踏まえて以前県の補助を受けて作成した対応ツールをホームページに掲載することにより会員の利便性を図った。

- ・外国籍県民が一般用医薬品を購入の際には相談をするよう呼びかけるポスター
- ・人体図ボード
- ・外国籍県民向け一般用医薬品販売対応マニュアル

（6）地域・職域薬剤師会との連携・支援の充実 〈管理課〉

地域・職域薬剤師会が行う地域の特性に応じた安全管理体制の充実や新たな医療制度・危険ドラッグ対策の強化への取組みなどに対し助成した。これら助成事業は、ホームページで公開した。

- ・公益目的事業補助金：33 地域・職域薬剤師会 交付額 21,283 千円
- ・先導的事業委託金：6 地域薬剤師会 交付額 2,603 千円
- ・危険ドラッグ対策事業補助：0 地域（再掲）

7. 災害時医療救護活動に関する事業

（1）災害時優先携帯電話を利用した訓練の実施

昨年の訓練実施に得られた訓練方法等の改善の必要性から、連絡網の見直しを含めた運用の再検討が必要であることから、本年は訓練自体の見直しを図った。

（2）災害用備蓄品の整備 〈管理課〉

災害時派遣支援用として、3 名を 90 日間派遣できる程度の飲食糧及び衛生用品を追加整備した。

また、災害対策本部 20 人分及び帰宅困難者 50 人分の 3 泊 4 日程度の飲食糧のうち、賞味期限切れのものを入れ替え整備した。さらにインフルエンザ対策として、熊本地震でも出庫したディス

ポータル手袋の補充、簡易ベッドを1台購入した他、ヘルメットや非常用排便収納袋等を追加購入した。

(3) 隣接都県との連携強化

① 災害発生地域との連携強化

- ・ 熊本地震発生に伴う災害時救護薬剤師の現地派遣＜事業課＞

平成28年4月14日、熊本県と大分県で相次いで大規模地震が発生した。4月16日には震度7の本震が発生した。

この震災により、多くの熊本県民は健康面及び衛生面において大きな不安を抱えるまま困窮を極めた。

この状況に対応するため、日本薬剤師会は厚生労働省からの要請により全国の都道府県薬剤師会に対して支援を呼びかけた。これに基づき5月2日から5月22日までの間、災害時医療救護活動の一環として神奈川県から延べ15人の薬剤師を派遣して医療救護にあたった。

- ・ 熊本地震発生に伴う義援金の募集＜事業課＞

本会単独で5月に50万円を熊本県薬剤師会に義援金として送金し、本会会員に向けて義援金をホームページを通じて募り、①被災した熊本県薬剤師会会員に1,445,000円を熊本県薬剤師会に、②被災した熊本県民の方々に1,988,000円を日本赤十字社にそれぞれ寄贈し、本会会員の総意として合計3,933,000円の義援金を熊本県の方々に届けた。

Ⅱ 法人組織運営に関すること

(1) 総会、理事会等開催など

○ 法人組織運営

総会、理事会、常務理事会、正副会長会など諸会議の円滑な運営を行った。

○ 関連委員会等の開催

・ 総務委員会

平成 27 年度事業報告（案）及び収支決算報告（案）について協議した。

平成 29 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について協議した。

平成 28 年度公益目的事業補助金及び先導的事業委託金の交付について検討した。

神奈川県薬剤師会における協力団体としての横浜市内の地域薬剤師会について協議した。

・ 議事運営委員会

通常総会・臨時総会の運営について、「議事運営委員会運営要綱」に基づき、代議員会の運営方法について協議した。

・ 代議員選挙管理委員会

ア 補欠の代議員選挙（大和市・綾瀬市 1 名）

代議員選挙立候補書類審査（4 月 18 日）

代議員選挙告示 平成 28 年 3 月 24 日

選挙期日 平成 28 年 5 月 13 日

当選者告示 平成 28 年 5 月 13 日

イ 補欠の代議員選挙（伊勢原市 1 名）

代議員選挙立候補書類審査（12 月 22 日）

代議員選挙告示 平成 28 年 11 月 24 日

選挙期日 平成 29 年 1 月 13 日

当選者告示 平成 29 年 1 月 16 日

ウ 平成 29・30 年度を任期とする代議員選挙・補欠の代議員選挙（代議員 77 名、補欠の代議員 17 名）

代議員選挙立候補書類審査（2 月 20 日）

代議員選挙告示 平成 29 年 1 月 20 日

選挙期日 平成 29 年 3 月 13 日

当選者告示 平成 29 年 3 月 15 日

(2) 組織強化と財務の健全化

公益社団法人としての定期提出書類「平成 27 年度事業報告等」・「平成 29 年度事業計画書等」及び変更した。「定款等諸規定」を神奈川県公益法人認定委員会へ提出、また、神奈川県文書課主催の説明会へ出席した。

① 公益法人運営特別会費検討委員会の開催

平成 31 年会館建設の借入金の返済完了にあたり、今後の公益法人運営特別会費のあり方について、各エリアから選出された委員により、10 月 27 日に検討委員会を開催し、意見を求めた。

○ 県三師会との連携事業

多様化する医療環境の中で、医療制度改革が様々な形で推進され、保健及び医療を担う三師会として適切な対応が求められている。このような状況を踏まえ、より一層緊密な連携を保ち、また、それぞれの会が抱えている会務運営等共通の課題について情報交換と協議を行い、地域医療の推進や県民の健康確保に資することを目的として、毎年（当番制）開催している。本年度は歯科医師会が当番幹事であった。

- ・ 県三師会役員連絡協議会（9月13日）＜出席者：医＝26名、歯＝22名、薬＝17名＞

【協議テーマ】地域保健・医療活動の強化と連携

ア 地域包括ケアの取り組みについて

医 師 会）地域包括ケアの取り組みについて

歯科医師会）地域包括ケアシステムにおける歯科医療の提供

薬 剤 師 会）健康サポート機能と地域包括ケアについて

イ 大規模災害時における各三師会の対応と連携について

医 師 会）



（3）会員管理

- ・ 入会申請に係る入会審査は50回実施し、360名を承認した。
- ・ 平成28年度よりⅢ種会員（年会費：7,200円）を創設した。（4月1日付：対象者62名）
- ・ 会員規程で定めた手続きにより、会員の登録を行った。
- ・ 地域及び職域薬剤師会の会員担当、事務局等へ入退会者、変更者について通知した。
- ・ 日本薬剤師会へ会員の異動データを作成し報告した。
- ・ 薬剤師賠償責任保険加入手続きに伴う会員登録について適正に指導し、積極的な入会促進及び薬剤師賠償責任保険に加入するよう周知した。
- ・ 現行システムの使用ソフトの課題及びセキュリティの脆弱性の強化の観点から会員管理新システムの開発を行った。

・ 県薬会費・公益法人運営特別会費の請求業務

ア 県薬会費・公益法人運営特別会費及び日薬会費の請求書送付

口座振替(3,794件依頼、(振替済み：3,762件、振替不能：32件))1回（平成28年6月）

コンビニ収納による会費等の請求 2回（平成28年8月、平成28年12月）

イ 公益法人運営特別会費及び保険薬局分担金のランク調査を実施した。

（平成28年10月～平成29年3月）

会員 2,545件 非会員 1,231件

・ 入会の促進

ア 未入会の管理者、勤務者の入会を、開設者あてに依頼した。

イ 本会主催の研修会の参加者の中で、未入会の薬剤師に入会を案内した。

ウ 平成27年度に申告のあった開設者・管理者未入会店舗への保険薬局分担金への協力を依頼173件

エ 非会員の保険薬局分担金納入協力薬局88件に対し、謝礼として薬壺を送付するとともに、入会勧誘を行った。

・ 会員サービス等業務

ア 薬局・医薬品販売業、医薬品製造業・製造販売業、毒劇登録、高度医療機器等の更新申請書を送付した。

845件：594店舗分（平成28年4月～平成29年3月送付分迄）

イ 薬局医薬品製造業許可者を対象に副作用拠出金・安全対策等拠出金の申告及び納入業務を行った。

227件（平成28年6月～9月）

ウ 麻薬取扱者免許の継続申請及び平成28年麻薬年間届を所轄保健所へ提出するよう該当者へ申請書類等を送付した。

1772件（平成28年9月）

・ 日本薬剤師会からの受託事業

ア 日薬会費の徴収を行うため、日薬と事業連携協力に関する覚書を締結した。

イ 日薬会費徴収分を、日薬へ送金した。（平成28年9月、平成29年2月、3月）

ウ 日本薬剤師会の会員数を調査し、日本薬剤師会へ報告した。（平成28年11月）

- エ 日本薬剤師国民年金基金の加入者に対して、薬局の従事者である資格証明を行った。
- オ 日本薬剤師会賠償責任保険・日本薬剤師会薬剤師年金の加入促進のために、希望者に対しパンフレットを送付し加入の推進を行った。

(4) 共済部からの寄付について

平成 27 年 5 月 21 日の共済部総会において、共済部の解散及び剰余金の処分について審議し、共済部の解散を決議した。

解散後、総会で選出された清算人により、全部員に返戻金の希望の有無を確認し、希望者への返金手続きを行い、本年 3 月 29 日の清算人会において、剰余金 23,756,375 円を公益社団法人神奈川県薬剤師会に寄付することを決定し、本会はその寄付を受けた。

Ⅲ 共益事業

(1) 薬剤師の生涯教育の推進 <生涯学習委員会>

① 倫理研修会の実施

医療・薬学の進歩及び医療ニーズの変化に対応できる薬剤師を育成するため、生涯教育認定制度を推進している。

なお、患者中心の医療の徹底など薬剤師倫理の向上を図るため、倫理研修会を地域薬剤師会との共催2回含め年4回開催した。

<倫理研修会の開催>

ア 第1回倫理研修会（共催：横浜市薬剤師会）

日 程：7月2日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

内 容：「日常業務における薬剤師の倫理」

講 師：神奈川県薬剤師会 倫理委員会委員 高橋 洋一 氏

出席者：46名（会員42名、非会員4名）

イ 第2回倫理研修会（共催：茅ヶ崎寒川薬剤師会）

日 程：10月15日

会 場：茅ヶ崎市地域医療センター

内 容：「日常業務における薬剤師の倫理」

講 師：神奈川県薬剤師会 倫理委員会委員 高橋 洋一 氏

出席者：32名（会員27名、非会員5名）

ウ 第3回倫理研修会

日 程：11月26日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

内 容：「倫理審査が求められる臨床研究とは

～人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンスより～」

講 師：東京理科大学 薬学部教授 上村 直樹 氏

出席者：39名（会員37名、非会員2名）

エ 第4回倫理研修会

日 程：1月29日

会 場：小田原市保健センター

内 容：「薬剤師のリスクマネジメント」

講 師：慶應義塾大学 名誉教授 福島 紀子 氏

出席者：43名（会員41名、非会員2名）

② 薬剤師向け周知チラシ作成

当初、会員に向けたPR用のチラシの作成を予定していたが、前述のCPC取得の結果により掲載内容が大きく変化することから本年度は作成を見送ることとした。

③ 新任薬剤師研修会の開催

新卒薬剤師及び薬局勤務経験2～3年の薬剤師に向けて、日常業務の中で必要とする基本的な知識の習得、向上を目的に新任薬剤師研修会を開催した。

日 程：9月11日

会 場：会場：神奈川総合薬事保健センター

内 容：・「薬剤師のための倫理」生涯学習委員会 委員長 鈴木 良雄

・「実例に学ぶ薬剤師賠償責任保険事故」損保ジャパン日本興亜株式会社 須崎 雄大

・「保険調剤について」医療・介護保険委員会 委員 大島 正

・「いまさら聞けない在宅医療のいろはのイ

～在宅医療・介護保険のポイントについて」

医療・介護保険委員会 副委員長 川村 幸久
出席者：51名（会員16名、非会員35名）

④ 復職支援実務研修会の開催

長期休業していた薬剤師（資格者）で薬局へ復帰を目指している方を対象として、復職支援を開催した。薬剤師技術の再確認や最新の情報についての学習及薬局実習を行なうプログラム支援を行なった。今年度は地域情報紙『タウンニュース』で周知を行なった。

〈申込者〉6名（会員1名、非会員5名） 〈出席者〉4名（会員1名、非会員3名）

新 ⑤ 薬局等開設者研修会の開催

平成26年11月25日に医薬品医療機器等法が施行され、薬局の開設者並びに医療・薬事に従事する薬剤師に法的に規定される義務等については、意識を新たにし、遵守しなければならない事案の根幹を成すものとする。

一方、医薬品医療機器等法の規定は難解なものが多いので、非薬剤師で薬局を開設する会員を主な対象に、同法上に規定される開設者の義務及び薬剤師が備えるべき薬剤師倫理に関する研修会を開催した。

日 程：12月10日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター

内 容：・ 薬局開設者が遵守すべき医薬品医療機器等法上における規定について

神奈川県保健福祉局生活衛生部薬務課 石川 哲也 氏

・ 薬剤師の倫理について

倫理委員会委員 高橋 洋一 氏

出席者：27名

⑥ 生涯学習認定制度の規程等の改定及び薬剤師認定制度認証機構より生涯研修プロバイダーの取得

神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度を公知とするため「薬剤師認定制度 認証機構（以下、CPC という）」の認証取得について平成28年10月に開催された臨時総会で承認され、11月にCPCに認証申請をした。

申請後、CPCから質問・意見等を数回求められ、制度の一部、規程等の修正を行い、平成29年3月10日付けで認証を取得した。（認証番号G21）



（認証状）

○ 神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度の運営

ア 生涯学習認定薬剤師

神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度の発足後、4年度目である平成28年度の申請者は58名、認定者は58名であった。

また、3年継続して生涯学習認定証の交付を受けた5名の薬剤師に対して生涯学習認定証及び徽章を交付した。

イ 研修シールの発行

地域薬剤師会から請求のあった研修シールの発給状況は申請数236件、使用枚数は22,635枚であった。

ウ 2016年度生涯学習記録の作成

神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度を会員に広く周知するために生涯学習記録を薬壺へ同封して配布した。（5,000部作成）

○ 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度事業（神奈川県薬剤師研修協議会）

日本薬剤師研修センターより委託され、研修認定薬剤師制度の認定事務の一部を行なった。

研修認定薬剤師申請業務

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 受付件数 4,301 件、申請件数 3,923 件

（前年度：受付件数 1,018 件、申請件数 983 件）

研修認定薬剤師認定証発送業務

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 申請分発送作業件数：2,540 件

（新規：1,894 件、更新：702 件）

（前年度 新規：304 件、更新：683 件）

（2）リスクマネジメントシステムの充実

① 薬局プレアボイドの事例収集 ＜リスクマネジメント委員会＞

薬局プレアボイド報告事業を実施することにより、患者の安全で安心な薬物療法を支援し、県民の健康保持に寄与することを目的として「薬局プレアボイド報告事業」キャンペーンを平成 28 年 11 月 1 日から同月 14 日までの間実施し、131 件の有効回答を得ることができた。

収集結果並びに考察については、平成 29 年度にリスクマネジメント委員会 安全管理対策小委員会において解析することとしている。

〈報告内容（％）〉

副作用	相互作用	併用禁忌	重複投薬	治療効果不十分	過量投与	配合禁忌	コンプライアンス	その他
26.8	4.7	9.4	19.7	8.7	11	0	4.7	24.4

〈情報発端（％）〉

医薬品情報提供による患者（家族）の訴え	患者の症状	処方せん	お薬手帳	薬剤服用歴	持参薬チェック	その他
26.8	10.2	31.5	12.6	46.5	0	3.9

新 ② 薬局プレアボイド研修会の開催 ＜リスクマネジメント委員会＞

薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的患者ケアを実践して副作用、相互作用、治療効果不十分など患者の不利益を回避あるいは軽減した事例を薬物療法に活かすことの情報を共有するための研修会を実施した。

日 程：3 月 16 日

会 場：神奈川県総合薬事保健センター 1 階多目的ホール

内 容：ア 現場で活躍する薬剤師の実例報告 プレアボイド
～副作用マネジメントの実践～

日本病院薬剤師会 プレアボイド評価小委員会委員長

神奈川県病院薬剤師会 業務検討委員会委員長

笠原 英城 氏

（日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部長）

イ 第 2 回薬局プレアボイド報告キャンペーン結果報告

リスクマネジメント委員会

安全管理対策小委員会 小委員長 石井 泰彦

ウ 優秀事例・最多報告表彰

優秀事例 橘薬局向原店 橘 津義 氏

こばやし薬局支店 森村 茂 氏

株式会社わかば さくら薬局 白石 朗 氏

最多報告 東聖薬局相模原店

出席者：54 名

新 ③「調剤トラブル発生時注意喚起ステッカー」の作成

会員薬局において、実際に調剤事故が発生した場合に慌てずに対処されるように調剤室に掲示するための「調剤トラブルに遭遇したら!!」マグネットシートを作成した。

《「調剤トラブルに遭遇したら!!」
マグネットシート》



④ プレアボイド情報交換会の開催 <リスクマネジメント委員会>

神奈川県病院薬剤師会の業務検討委員会と共同でプレアボイド事例の収集事業に係る留意点等の情報を共有するための情報交換会を開催した。(7月21日)

○リスクマネジャー会議の開催 <リスクマネジメント委員会>

調剤事故等の縮減などのため、各地区40名のリスクマネジャーを集めた会議を神奈川県総合薬事保健センターにおいて例年6～7月と9～10月に開催することとしている。

この会議内容を中心に毎年秋季に県下統一調剤事故防止研修会の開催を地域薬剤師会に依頼し、研修内容の一部としてリスクマネジャー会議における主要講演をDVDに収録して配布資料とともに地域薬剤師会に提供した。

・第1回 7月14日開催

内 容：「薬局で使えるプレアボイド～症例から学んで実践!～」

講 師：日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典 氏

その他、「神奈川県薬に報告のあった調剤事故事例について」など

・第2回 9月8日開催

内 容：「患者安全管理～検査値入りの処方せんを受けたら～」

講 師：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 薬剤部長 田中 恒明 氏

その他、「第2回 薬局プレアボイド報告キャンペーンの実施について」など

(3) 多重受診防止対策及び偽造処方せん対策の推進 <リスクマネジメント委員会>

本年10～11月を中心とした「2016県下統一調剤事故防止研修会」、調剤事故の未然防止及び事故が起きた場合の速やかな対応などに関する医療安全に係る研修事業を地域薬剤師会に対して開催を依頼した。

会員薬局において実際に重篤な調剤事故が発生した場合を想定して、緊急にしかるべき措置を講じる必要があると会長が判断した場合を仮定し、顧問弁護士や担当役員等を構成員とした「調剤事故検討会」を即座に設置した模擬対応を実施した(2月9日)。

また、多数の医療機関を受診して多くの向精神薬を入手する「多重受診」、処方せんをカラーコピー等で違法に変造・改ざんする患者の「偽造処方」について、リスクマネジャーによる市薬剤師会内の会員一次調査結果及びリスクマネジャーからの情報に基づき県内40地区の全リスクマネジャーあてに通知した。

〈偽造〉7月8日(海老名 マイスリー等)、3月2日(大和綾瀬 アレジオン)

〈多重〉4月15日(西 エリミン等)、4月20日(青葉 マイスリー等)、
5月31日(平塚 デパス等)、3月2日(大和綾瀬 ハルシオン等)

(4) 医薬品計画的試験検査委託 <薬事情報センター>

医薬品医療機器等法施行規則第12条及び第141条に基づき、東京理化学テクニカルセンター株式会社へ委託した。

- ・ 計画的試験：オランザピンの溶出試験（先発品、後発品18製品）
- ・ 委託費等経費：1,671,398 円（医薬品代を含む）
- ・ 試験結果：いずれの製剤も 30 分後の溶出率は 80%以上であり、規格値を満たしていた。また、ジプレキサ（オランザピン）5mg 錠と後発品 18 製剤間での溶出時間毎の平均溶出率に大きな差は認められなかった。

（５）薬剤師賠償責任保険・個人情報漏えい保険の普及

日本薬剤師会員を対象として、薬局の有事に備えるため各保険を紹介するべくパンフレット等を配布した。

（６）会誌「薬壺」発行事業 <広報出版委員会>

雑誌「薬壺」を 6 回発行した。隔月（奇数月）

薬学・医学領域に関する情報や医薬品情報、厚生労働省・神奈川県
の動向、日本薬剤師会等からの通知、薬業界の話題等を掲載し、薬剤師の学術的資質の向上を促すとともに薬学・薬業の進歩発展に資した。

また、中央社会保険医療協議会（中医協）の最近の動向について、日薬安部常務理事へのインタビューを行い（H28/8/9）薬壺に掲載した。

横浜市薬剤師会の地域における取り組みについても取材を行い（H29/3/8）、今後薬壺に掲載予定である。

会誌配布先：会員、各都道府県薬剤師会、保健センター、薬科大学、新聞社 他

発行部数：5,200 部/回



（７）会員向けホームページ、メールマガジンの充実

① 当会ホームページの会員ページに理事会や総会などの会議報告、日本薬剤師会・行政などからの通知等を掲載し、会員活動に資するとともに、薬剤師求人システムの円滑な運用を図った。

② 薬壺を PDF 化し、会員ページ内に掲載し、テキスト検索が可能なたため、会員の利便性につながった。

③ 平成 29 年 4 月に向けて会員ログインの仕組みなどを見直し、検討した。

トップページアクセス数：平成 28 年 3 月～平成 29 年 2 月 年間 34,350 件

（前年度：年間 26,931 件）

会員ページアクセス数：平成 28 年 3 月～平成 29 年 2 月 年間 7,445 件

（前年度：年間 6,627 件）

④ 会員へのメールマガジンの発信については、日本薬剤師会や神奈川県等からの通知、さらには本会に関するイベント情報（くすりと健康すこやかフェア、各種研修会など）や本会ホームページの「会員への通知」に掲載した内容など様々な情報について、メールマガジンとして 68 回に渡り登録のある会員に発信した。

○ 保険薬局内掲示板のリニューアル＜地域保健委員会＞（薬壺 2017.3・4月号 P46・47 参照）
 医薬品医療機器等法、健康保険法等に規定されている薬局内に掲示することが規定される主な項目について、地域保健委員会により一覧で参照することができるパネルを作成して会員に向けて頒布した。

当薬局の管理及び運営に関する事項

公益社団法人 神奈川県薬剤師会

許可の区分の別：薬局				薬局の名称・許可番号・許可年月日・所在地・有効期間：薬局開設許可証（別掲）を参照			
電話：				ホームページ：			
FAX：				メールアドレス：			
薬局開設者：				管理薬剤師：			
勤務薬剤師（担当業務）							
登録販売者（担当業務）：							
勤務者の区別について							
着衣の特徴：		薬剤師		登録販売者		その他の勤務者	
名札：「薬剤師」＋氏名		「登録販売者」＋氏名 または 「登録販売者（研修中）」＋氏名		職名＋氏名			
薬剤師 ○○ ○○		登録販売者 ●● ●● （研修中） ▲▲ ▲▲		一般従事者 △△ △△			
取り扱う医薬品の分類：							
～店舗での販売～							
開局時間および定休日：							
時間外の相談対応時間： （緊急・相談時の連絡先）							
～特定販売～ （ネット販売、電話販売等）							
特定販売のみの時間：				注文のみの受付時間：			

<全体>

当薬局の管理及び運営に関する事項

許可の区分の別：薬局		薬局の名称・許可番号	
電話：			
FAX：			
薬局開設者：			
勤務薬剤師（担当業務）			
登録販売者（担当業務）：			
勤務者の区別について		薬剤師	
着衣の特徴：			
名札：「薬剤師」＋氏名			
		薬剤師 ○○ ○○	
取り扱う医薬品の分類：			

<一部拡大>

IV 収益事業

(1) 会議室等賃貸業

- ・事務室 本会の1・3・4・5階の事務室の一部をヴェオリア・ジェネッツ(株)及び横浜市薬剤師会などに貸与した。

- ・会議室その他 1・3階の会議室を時間単位で貸し出ししたほか、立体駐車場7台分を賃貸した。

会議室貸し出し利用率 17% (平成27年度 20%) <42ページ参照>

- ・保健センター補修工事

経年劣化などから次の補修工事などを行った。

ア 301号室空調・天井改修工事	6月
イ 2階休憩スペース空調改修工事	9月
ウ 5階ヴェオリア天井漏水調査	10月

- ・什器備品(固定資産)の購入

ア 液晶プロジェクター(明るさ8,000lm)購入	5月
イ 1階音響設備アンプチューナー・ワイヤレスマイク購入	6月
ウ 1階電光掲示板購入	12月

(2) 書籍等販売業

薬局等に必要なレセプト及び帳票・書籍を斡旋した。その件数は次のとおりである。

- ・レセプト及び帳票頒布件数 518件 (窓口 181件、宅配等 337件)
- ・書籍等の斡旋件数 99件 325冊

平成28年4月～平成29年3月会場利用状況

月	部屋 時間	ホール			301号室			302号室			303号室			304号室			306号室			307号室			合計			前年度							
		午前	午後	夜間	計	午前	午後	夜間	計	午前	午後	夜間	計	午前	午後	夜間	計	午前	午後	夜間	計	午前	午後	夜間	計	利用率	計	利用率					
4月	外部	3	3	1	7	6	10	2	18	2	1	0	3	2	4	2	8	4	3	4	11	5	6	2	13	24	31	13	68	11%	67	11%	
	内部	1	1	1	3	0	0	1	1	0	1	3	4	0	0	1	1	0	1	4	5	0	2	2	4	1	5	13	19	3%	13	2%	
5月	外部	15	16	3	34	8	10	1	19	7	6	0	13	3	7	2	12	2	2	3	7	6	7	1	14	43	55	12	110	19%	90	14%	
	内部	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	3	0	1	2	3	0	0	2	2	2	3	8	13	2%	27	4%	
6月	外部	13	13	2	28	8	9	1	18	2	4	1	7	2	4	2	8	4	4	4	12	8	9	2	19	39	47	14	100	16%	104	17%	
	内部	2	3	2	7	0	0	2	2	0	0	2	2	2	2	0	4	0	0	2	2	0	0	1	1	6	7	9	22	4%	44	7%	
7月	外部	18	18	15	51	5	3	1	9	12	10	10	32	4	5	3	12	1	1	0	2	4	7	1	12	48	49	33	130	21%	139	22%	
	内部	1	2	4	7	0	1	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	2	2	7	11	2	2	3	7	5	7	17	29	5%	14	2%
8月	外部	23	23	22	68	4	5	1	10	22	20	20	62	2	3	1	6	5	2	3	10	2	4	1	7	60	60	49	169	27%	129	20%	
	内部	1	1	2	4	0	0	2	2	0	1	0	1	1	0	0	1	1	2	2	5	0	0	1	1	2	4	9	15	2%	16	3%	
9月	外部	11	10	3	24	5	7	1	13	2	2	0	4	4	5	1	10	2	2	2	6	5	7	1	13	32	37	9	78	13%	142	23%	
	内部	0	3	4	7	0	1	1	2	0	1	4	5	0	2	0	2	0	0	5	5	0	0	2	2	0	9	16	25	4%	22	3%	
10月	外部	11	11	3	25	5	8	1	14	4	5	4	13	5	5	2	12	4	4	2	10	3	2	7	0	12	37	42	14	93	15%	139	21%
	内部	0	1	2	3	0	0	1	1	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	2	2	0	2	13	15	2%	18	3%	
11月	外部	7	9	2	18	5	4	2	11	1	0	0	1	4	4	2	10	2	1	2	5	3	4	0	7	26	26	10	62	10%	84	13%	
	内部	1	2	1	4	0	0	1	1	0	2	2	4	0	0	0	0	0	2	2	4	0	2	3	5	1	8	9	18	3%	24	4%	
12月	外部	11	12	8	31	5	6	1	12	2	3	2	7	3	4	1	8	3	2	3	8	3	6	3	12	30	37	19	86	16%	128	23%	
	内部	0	2	0	2	0	0	1	1	0	3	2	5	0	0	2	2	0	1	5	6	0	1	3	4	0	7	14	21	4%	17	3%	
1月	外部	19	19	13	51	6	5	0	11	4	5	3	12	1	3	1	5	3	3	0	6	4	7	0	11	38	45	18	101	18%	136	24%	
	内部	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	4	4	1%	12	2%	
2月	外部	8	9	3	20	5	4	2	11	2	2	1	5	1	2	0	3	3	3	3	9	6	8	2	16	26	30	11	67	13%	135	23%	
	内部	2	2	1	5	0	0	2	2	0	2	4	6	1	1	1	3	1	2	3	6	1	2	2	5	6	10	14	30	6%	33	6%	
3月	外部	14	15	10	39	7	12	2	21	10	9	5	24	3	6	3	12	4	4	0	8	4	6	0	10	45	58	23	126	20%	152	24%	
	内部	1	1	1	3	0	0	3	3	0	3	4	7	0	0	1	1	0	0	3	3	0	0	1	1	1	4	14	19	3%	18	3%	
合計	外部	153	158	85	396	69	83	15	167	70	67	46	183	34	52	20	106	31	50	20	101	36	29	26	91	55	78	13	146	17%	1,445	20%	
	内部	9	18	18	45	0	2	16	18	0	14	26	40	4	6	8	18	4	6	7	17	4	11	43	58	3	9	22	34	3%	258	4%	

内部は、県薬剤師会の利用です。

利用率の算出方法

1つの部屋の1日利用可能回数を午前、午後、夜間の3としてカウント(メンテナンスに要する時間等は、カウント除外)

利用率＝利用回数/利用可能回数

平成 28 年度
公益社団法人 神奈川県薬剤師会 事業計画

本会は、公益社団法人として新たなスタートをし、本年度はその4年目になることから、この間の事業展開を検証しながら、より一層、医薬分業の質的向上をはじめ、県民の健康増進や福祉、医療などの充実に取り組み、また県民の期待に応えられる多くのかかりつけ薬局・薬剤師を育成していかなければならない。

そのためには、「日本再興戦略」において、セルフメディケーションの推進のため、薬局を地域に密着した健康情報の拠点として位置づけ、薬局・薬剤師を活用することが盛り込まれたことから、これに積極的に取り組んでいくことが重要である。

昨年9月には、厚生労働省から、医薬品等の安全・適正な使用と地域住民の健康維持・増進を支援するなどの「健康サポート薬局のあり方について」が、10月には薬局を患者本位のかかりつけ薬局に再編するための薬剤師と薬局の姿などを示した「患者のための薬局ビジョン」が公表された。本会が昨年スタートさせた「くすりと健康相談薬局」は、まさにこれらを取組み、かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師を目指すものであることから、地域薬剤師会と協働して、県内全域において1薬局でも多く育成することとする。

また、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題等から、国民が安心して生活できる社会保障制度を維持していくため、「地域医療・介護総合確保促進法」が平成26年6月に施行された。本会としても、この法律に基づく県基金事業も活用するなどして、在宅医療・介護事業、認知症対策等を積極的に展開していくこととする。

このような認識のもと、引き続き、公平かつ透明な会運営を基本的なスタンスとして、薬学・薬業の進歩発展、学校保健の向上、医薬品の適正使用、医療安全の推進、公衆衛生・地域医療への積極的参画、大規模災害への備え、そして地域・職域薬剤師会との連携の充実などを柱とする諸事業を、会員の総力を結集して着実かつ力強く推進することとする。

なお、薬事保健センター建設に係る長期借入金の返済額が大きく減ずることから、公益法人運営特別会費のあり方などについて、検討を進めていくこととする。

重点事業

- 1 薬学・薬業の進歩発展に関する事業
- 2 児童・生徒等に関する事業
- 3 医薬品適正使用に関する事業
- 4 医療安全に関する事業
- 5 公衆衛生に関する事業
- 6 地域医療に関する事業
- 7 災害時医療救護活動に関する事業
- 8 会員を対象にした共益事業

平成 28 年度事業体系図

〈大柱〉

〈小柱〉

公 1-1
薬学・薬業の進歩
発展に関する事業

1. かながわ薬剤師学術大会の開催
2. 日本薬剤師会学術大会への参加・発表
3. 薬学研究への助成
4. 臨床薬学研究に関する倫理審査
- ⑨・臨床薬学研究審査等研修会の開催
5. 薬学生育成に関する事業

公 1-2
児童・生徒等に関
する事業

1. 学校環境衛生管理事業
2. シンナー等薬物乱用防止啓発
 - ・小・中高生向け教材「ダメ、ゼッタイ」パンフ増刷
3. 医薬品適正使用教室の推進
- ⑨・書籍・DVD購入
4. 学校保健向上事業

公 1-3
医薬品適正使用に
関する事業

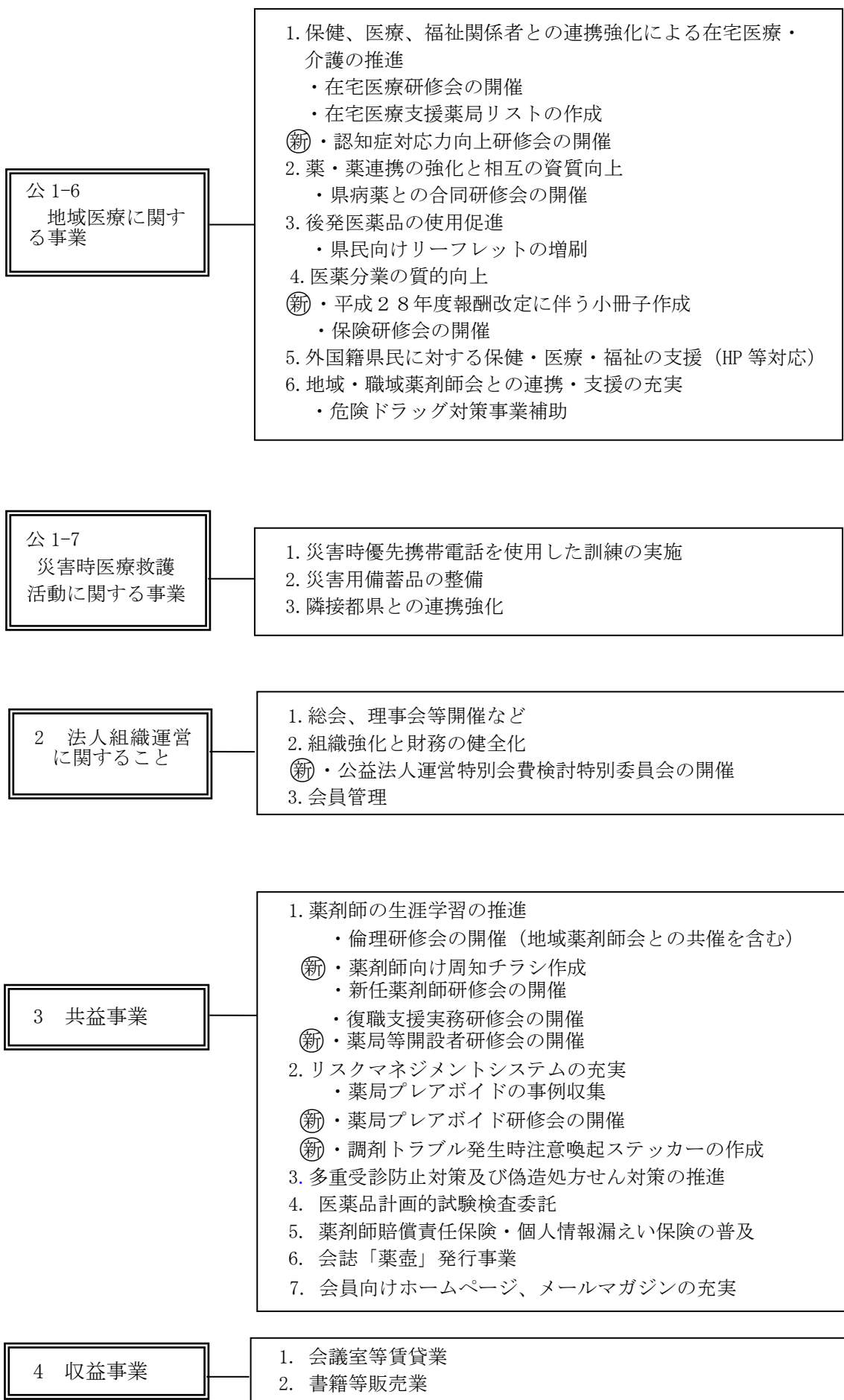
1. くすりと健康すこやかフェアの開催
2. 薬と健康の週間事業の支援
3. 医薬品適正使用検討及び調査事業
4. セルフメディケーションの推進
 - ・啓発ポスター 3回、新聞広告 2回
 - ・健康測定機器による健康相談の推進 4台リース
 - ・啓発グッズ作成（入浴剤）
 - ⑨・セルフメディケーション推進 ステッカー増刷
 - ⑨・薬剤師向けセルフメディケーション啓発研修会の開催
5. くすりと健康相談薬局の推進
 - ・認定証交付
 - ・チラシ・ステッカー・グッズ作成
 - ・新聞広告 2回
6. 薬事情報センターの充実
 - ・医薬品・ドーピング等に関する相談・情報提供

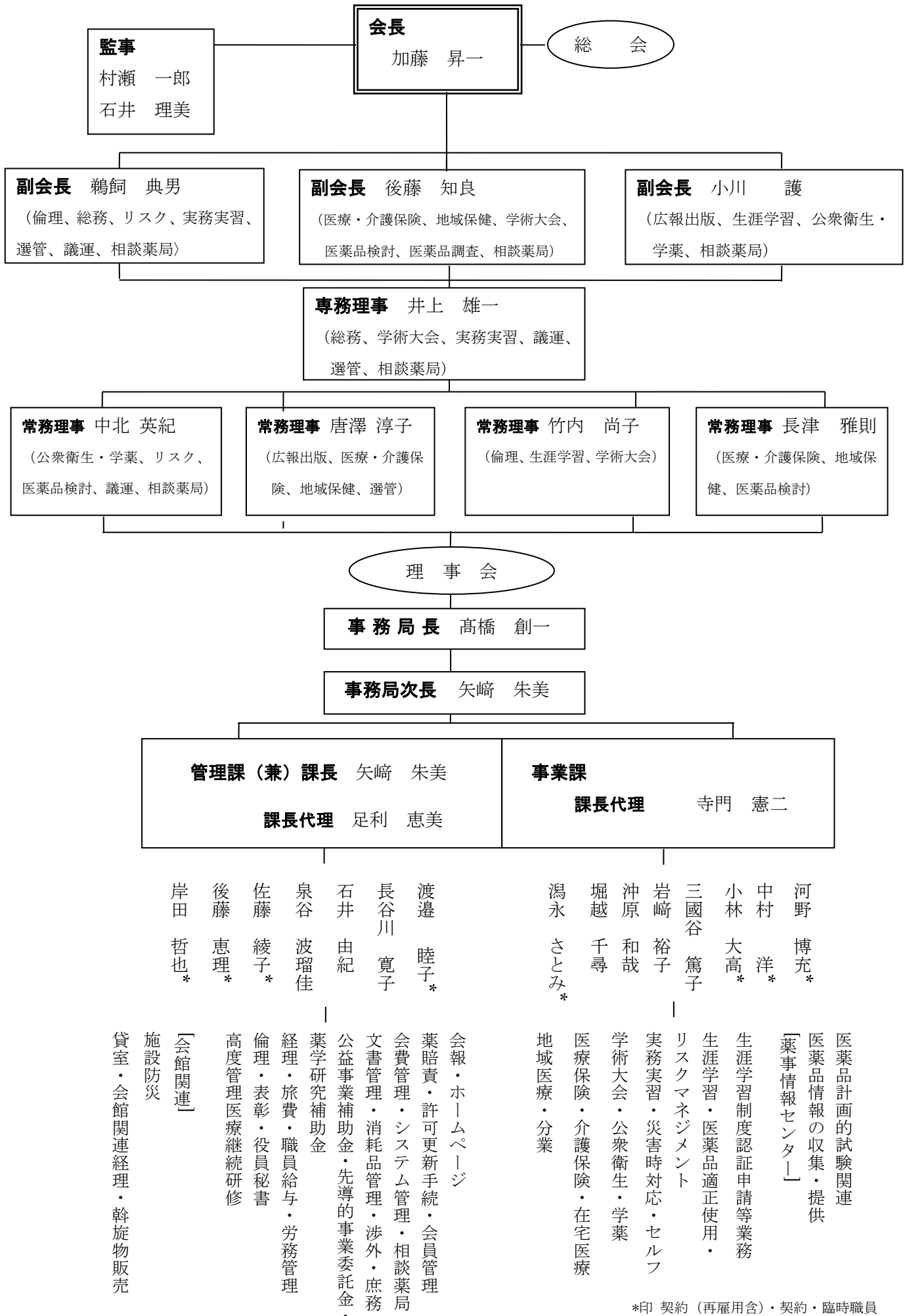
公 1-4
医療安全に関す
る事業

1. 神奈川医療安全推進セミナーへの参画
2. 高度管理医療機器継続研修会の開催 4回
3. 薬害関連資料収集検討

公 1-5
公衆衛生に関す
る事業

1. 献血事業への協力、推進
2. 薬物乱用防止の啓発
 - ・街頭キャンペーン 2回
 - ・危険ドラッグ啓発グッズ作成（マスク）
 - ・危険ドラッグ対策事業補助（再掲）
3. 公衆衛生に関する県民向け研修会の開催
4. かながわ健康財団等事業への参画
5. 地域自殺対策強化研修会の開催





平成28年度神奈川県薬剤師会委員会 委員名簿

平成29年3月31日現在

委員会	担当副会長	担当常務理事等	担当理事	委 員	担当課
倫理	鵜飼 典男	竹内 尚子	嶋 元 金子 弘之	◎上村 直樹 ○今井 澄江 武藤 一久	管理課
総務	鵜飼 典男	井上 雄一	嶋 元 向井 秀人	◎今井 裕久 ○鶴 恒雄 前田 成隆 荒澤 実 山田 修 菅野 宏一 橘川 博	管理課
広報出版	小川 護	唐澤 淳子	高堂 正 鶴岡 秀一	◎星野 高志 ○森嶋 まつ子 石渡 宏衛 吉川 武寿 山口 真知子 高橋 洋一 小高 賢一	管理課
生涯学習	小川 護	竹内 尚子	寺師 三千彦 阿部 正隆	◎鈴木 良雄 ○三澤 喜彦 笹谷 康子 馬淵 彰三 杉崎 薫 太田 久美子 黒岩 美枝 友田 健 細谷 治 三溝 和男	事業課
医療・介護 保険	後藤 知良	唐澤 淳子 長津 雅則	山形 光正 阿部 正隆 佐藤 克哉	◎永持 健 ○川村 幸久 ○夏目 善文 村上 恵一 菅野 君子 藤本 直樹 福嶋 仁 伊藤 啓 渡部 幸子 大岡 元 荒木 稔 大島 正 松崎 裕子 小林 弘忠 山崎 真弘 瀧本 淳	事業課
公衆衛生 ・学薬	小川 護	中北 英紀	高堂 正 金子 弘之	◎神原 大輔 ○油谷 由美 ○紫藤 成雄 山崎 健 八木 洋子 深井 則雄 小泉 貴子 関根 寿樹 大久保 敦子 大澤 佳奈子 牛腸 裕介 藤原 正一郎 金丸 茂樹	事業課
地域保健	後藤 知良	唐澤 淳子 長津 雅則	岩出 信幸 佐藤 克哉	◎塚本 久美 ○大島 崇弘 田中 大嗣 林 直子 堀川 壽代 宇井 敬 澤田 弘之 小川 亮子 市川 和子 樋島 学 石川 哲也	事業課
リスク マネジメント	鵜飼 典男	中北 英紀	寺師 三千彦 荒井 俊明	◎池田 勉 ○金 泰烈 飯沼 薫 山崎 秀之 佐伯 達也 石井 泰彦 竹本 裕治 新田 淳史 村上 和宣 原 和夫 太田 美智子 小島 昌徳 植村 知子	事業課
学術大会 実行	後藤 知良	井上 雄一 竹内 尚子	山形 光正 岩出 信幸	◎中村 正樹 ○横田 正作 野村 清司 遠藤 友香 鈴木 康生 寺杣 智子 齋藤 邦夫 渡邊 浩一	事業課
実務実習	鵜飼 典男	井上 雄一	坂本 悟 荒井 俊明	◎久保田 充明 ○木村 久美子 石川 弓子 渡辺 太 石黒 哲夫 小林 フミ子 片山 周也 前田 正樹 熊井 佳子 駒井 元彦 廣原 正宣 栗原 順一 難波 昭雄	事業課
代議員 選挙管理	鵜飼 典男	井上 雄一 唐澤 淳子		◎今井 裕久 ○三浦 雅美 吉原 睦子 鈴木 康久 越田 良仁 森島 一機 安藤 典幸 中村 朋子 小林 きぬ子 井上 哲男 渡邊 千括	管理課
総会議事運営	鵜飼 典男	井上 雄一 中北 英紀		◎石渡 宏衛 ○泉 紀久恵 藤巻 弘和 岩崎 勉 八鍬 広幸 大岡 元 後藤 君代 今井 和成 牛腸 裕介 矢野 光恭 金田 光正	管理課
医薬品適正 使用検討	後藤 知良	長津 雅則			事業課
くすりと健康 相談薬局制度 運営協議会	鵜飼 典男 後藤 知良 小川 護	井上 雄一 中北 英紀	鶴岡 秀一	◎福島 紀子 ○相田 邦彦 ○高橋 洋一 川田 哲 高柳 栄郎 天野 宏 今井 澄江	管理課
公益法人運営 特別会費検討	鵜飼 典男	井上 雄一 長津 雅則		◎山下 耕司 ○今井 和成 高木 健司 大村 卓 嶋崎 真義 山田 修 石黒 哲夫 大久保 敦子 原 延正 石井 豊 橋本 真也	管理課

◎委員長、○副委員長

敬称略

